



新潟県立大学高度化推進事業助成研究

# 保育に関するアンケート調査 報告書

保育現場における  
「気になる」子どもの行動特徴とその支援

2024年4月

新潟県立大学人間生活学部子ども学科

角張慶子 藤原健志 小池由佳 小澤薫



## 目次

はじめに.....	2
I. 調査の目的・概要.....	3
1. 調査の目的	
2. 調査の概要	
II. 調査結果.....	4
1. 基礎情報	
2. 「気になる」子どもについて	
1) 対象となる保育にあたった子どもに関する情報.....	7
2) 保育者が「気になる」子どもの行動特徴.....	9
3. 「気になる」子どもの保育について	
1) 保育者の対応とその有効性の認識.....	18
2) 保育にあたっての園内の保育者の被サポート認識.....	38
III. まとめ：データから見てきたこと.....	42
おわりに.....	44



## はじめに

今、多様な子どもたちを含んだ「インクルーシブ保育」の重要性が指摘されています。すなわち、すべての子どもたちが、日々の生活や遊びを通してともに育ちあう場である「保育」において、一人ひとりの子どもの特徴の理解やその子どもたちの持つニーズに対応したかわりが非常に重要だと言えます。

そのような保育の現場において、保育者研修等でも『「気になる」子どもの理解と支援』といったテーマが希望されることも多いように、保育者の視点から見たときに、子どもの育ち（行動・言動）が「気になる」と感じることも多いようです。保育者の「気になる」はその子どもの理解の重要なスタート地点です。また、そのような子どもたちへのかかわりにおいて、対応に「困る」「悩む」と感じつつも、それぞれに工夫されて保育をされている様子も見受けられます。

本調査は、そのような、それぞれの現場において保育者の皆様が積み重ねてこられた、子ども理解の視点（保育者が「気になる」子どもの行動特徴）や「気になる」子どもへの対応や工夫等について、客観的なデータとして示すことを目的として行われました。

「集団の中で育てる」という「保育」のもつ重要な役割の中において、個々の子どものニーズに対応していくためにはどのように子どもを理解し、支援していけばいいのか…本報告書にて示されたデータがこれらについて検討するきっかけとなれば幸いです。

なお、本調査を行うにあたりまして、新潟県内の各保育関係団体および、幼稚園・保育所・こども園の多くの方々にご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2024年4月

「保育現場における『気になる』子どもの特徴とその支援」に関する調査研究  
代表 角張 慶子



## I. 調査の目的・概要

### 1. 調査の目的

本調査は、新潟県内の保育者にアンケート調査を行い、保育現場における、保育者から見た「気になる」子どもとその支援の実態について明らかにすることである。

### 2. 調査の概要

#### (1) 調査対象

以下の新潟県内の保育関係団体に所属するすべての幼稚園・保育所・こども園（802園）に勤務する保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）

- ・新潟県私立保育園・認定こども園連盟
- ・新潟県私立幼稚園・認定こども園協会
- ・新潟市私立保育協会
- ・新潟市私立幼稚園・認定こども園協会（五十音順）

#### (2) 調査方法

- ・インターネット調査
- ・上記の保育関係団体を通じ、各園に対してURLを記した依頼の文書を送付（図表I-1）
- ・各園3名ずつこれまでに3～5歳児のクラス担任を経験したことのある幼稚園教諭・保育士・保育教諭への回答を求めた（配布総数2406）。
- ・調査時期：2021年11月～12月

図表I-1

送付先園（802園）の内訳	
幼稚園	51園
保育所	502園
認定こども園	249園

#### (4) 調査内容

- ・回答者の属性  
性別／年齢／勤務園種別／保育歴／保有資格／最終学歴／現在の立場／雇用形態
- ・「気になる」子どもの保育について  
→これまで保育で関わった中で1名の子どもを抽出して以下の回答を求めた  
「気になる」子どもに関する情報について  
「気になる」子どもの行動特徴について  
「気になる」子どもへの保育者の援助行動について  
「気になる」子どもへの保育者の援助行動に対する効果認識について
- ・保育者への園内でのサポート認識

#### (5) 倫理的配慮

依頼文書には回答の自由意思・任意性および回答をもって調査協力の同意とする旨を明記。本研究の実施にあたり、新潟県立大学倫理委員会の審査・承認を受けた（承認番号2117）。



## II. 調査結果

### I. 基礎情報

#### 1) 回収率

配布 2406 に対し、863 名からの有効回答を得た。配布数に対する有効回収率は 35.9%であった。

図表 II-1-1

配布数	配布施設	802
	配布数	2406
回収数	全回収数	865
	有効回答数	863
回収率	全回収率 (%)	36.0
	有効回収率 (%)	35.9

#### 2) 回答者属性

##### (1) 性別

回答者の 93.9%が女性、6.0%が男性であった。

図表 II-1-2

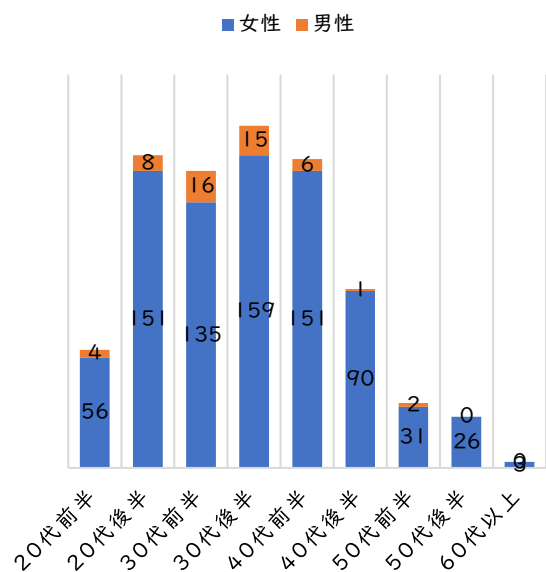
	人数	%
女性	810	93.9
男性	52	6.0
どちらともいえない	1	0.1

##### (2) 年齢

回答者の年齢は 21 歳～64 歳（平均 36.5 歳）であった。

図表 II-1-3

	人数	%
20 代前半	60	7
20 代後半	159	18.4
30 代前半	151	17.5
30 代後半	174	20.2
40 代前半	157	18.2
40 代後半	91	10.5
50 代前半	33	3.8
50 代後半	26	3.0
60 代以上	3	0.3
無回答	9	1.0



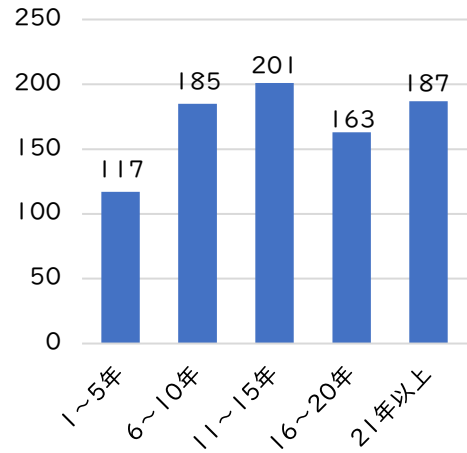


### (3) 保育歴

回答者の保育歴は1年～39年（平均14.5年）であった。

図表Ⅱ-1-4

	人数	%
1～5年	117	13.6
6～10年	185	21.4
11～15年	201	23.3
16～20年	163	18.9
21年以上	187	21.7
無回答	10	1.2

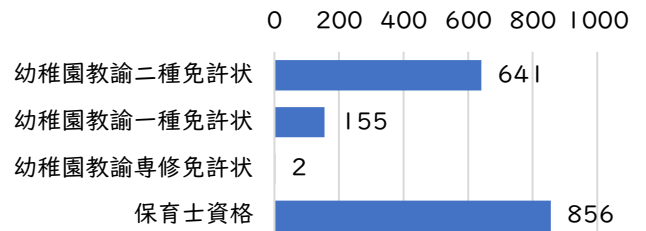


### (4) 保有資格／最終学歴

回答者の保有資格および最終学歴は、図表Ⅱ-1-5,6 のとおり。

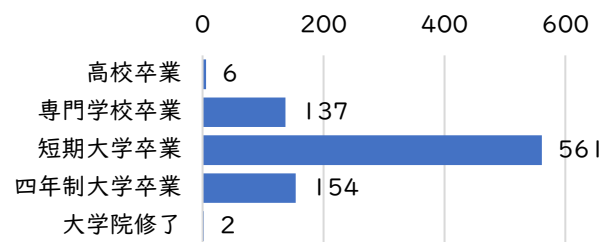
図表Ⅱ-1-5

(複数回答)	人数	%
幼稚園教諭二種免許状	641	74.3
幼稚園教諭一種免許状	155	18
幼稚園教諭専修免許状	2	0.2
保育士資格	856	99.2



図表Ⅱ-1-6

	人数	%
高校卒業	6	0.7
専門学校卒業	137	15.9
短期大学卒業	561	65.0
四年制大学卒業	154	17.8
大学院修了	2	0.2
無回答	3	0.3





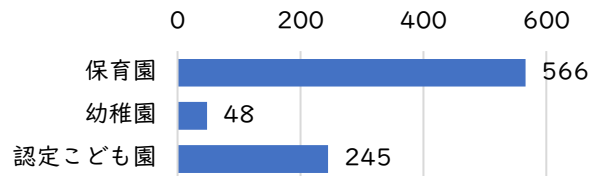
(5) 現在の勤務状況・立場

回答者の現在の勤務状況等は、図表Ⅱ-1-7,8,9のとおり。

<勤務園>

図表Ⅱ-1-7

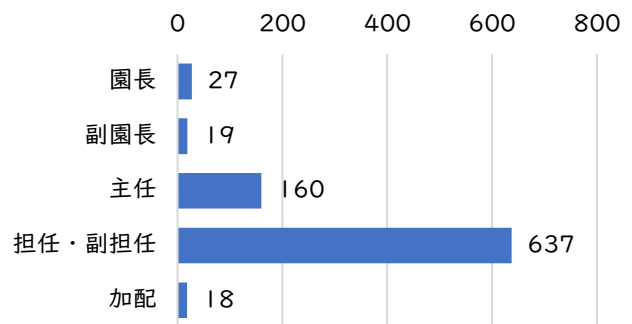
	人数	%
保育園	566	65.6
幼稚園	48	5.6
認定こども園	245	28.4
無回答	4	0.5



<仕事上の立場>

図表Ⅱ-1-8

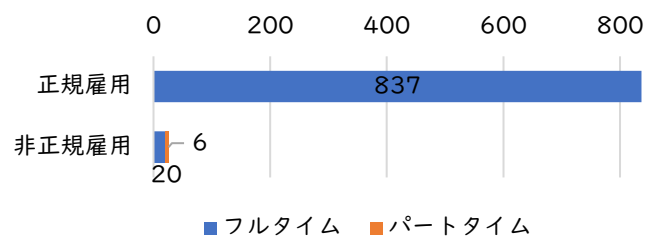
	人数	%
園長	27	3.1
副園長	19	2.2
主任	160	18.5
担任・副担任	637	73.8
加配	18	2.1
無回答	2	0.2



<雇用形態>

図表Ⅱ-1-9

	人数	%
正規雇用	837	97.0
フルタイム非正規雇用	20	2.3
パートタイム非正規雇用	6	0.7





## 2. 「気になる」子どもについて

### 1) 対象となる保育にあたった子どもに関する情報

保育者から見た「気になる」子どもの保育、について尋ねるにあたり、以下のような条件で1名のお子さんについて回答を求めた。

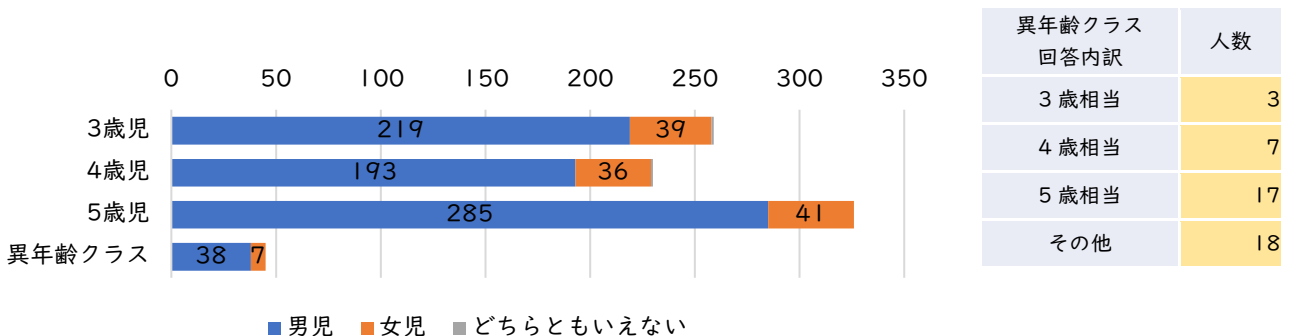
あなたがこれまで幼児教育や保育にたずさわってきた中で担当した、「気になる子」（行動や言動が気になったお子さん）を1人思い浮かべてください。  
 ＊現在担当しているお子さんでも、すでに担当が終わったお子さんでも結構です（卒園児も可）。  
 ＊3歳児クラスから5歳児クラスに在籍する（した）お子さんから特定の1人を思い浮かべてください。  
 ＊複数年担当した場合は、そのうちの特定の年度（1年間）を思い出して、答えてください。

#### (1) 子どもの性別および在籍クラス

保育者にこれまでに担当したなかで1名を選んでもらった結果、以下の子どもが抽出された。保育者が思い浮かべたのは、男児が約85%、女児が約14%、であり、男児を思い浮かべた保育者が多かったといえる。また、在籍クラスごとの男女の割合に偏りは認められなかった。

図表Ⅱ-2-1

	男児	女児	どちらとも いえない	在籍クラス 人数	在籍クラス 割合(%)
3歳児	219	39	1	259	30.0
4歳児	193	36	1	230	26.7
5歳児	285	41	0	326	37.9
異年齢クラス	38	7	0	45	5.2
人数	735	123	2		
性別割合(%)	85.2	14.3	0.3		





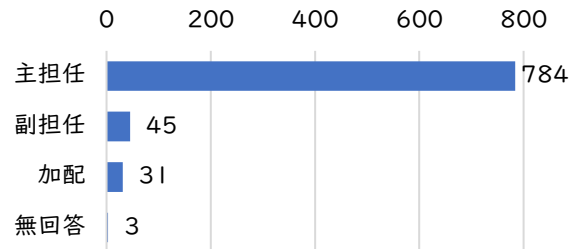


(2) 子どもに対する回答者の関係

主担任として子どもと関わったという回答者が約9割であった。

図表Ⅱ-2-2

	人数	%
主担任	784	90.8
副担任	45	5.2
加配	31	3.6
無回答	3	0.3

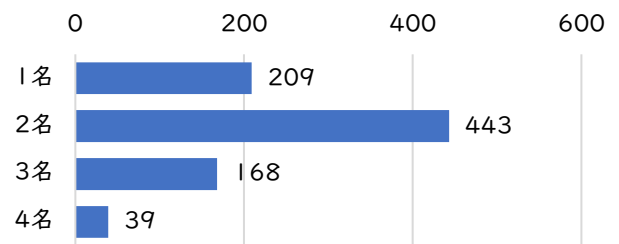


(3) 当該在籍クラスの保育者の配属数

約4分の1はクラスの保育者が一人、約4分の3は複数での担当であった。

図表Ⅱ-2-3

	人数	%
1名	209	24.2
2名	443	51.3
3名	168	19.5
4名	39	4.5
無回答	4	0.5

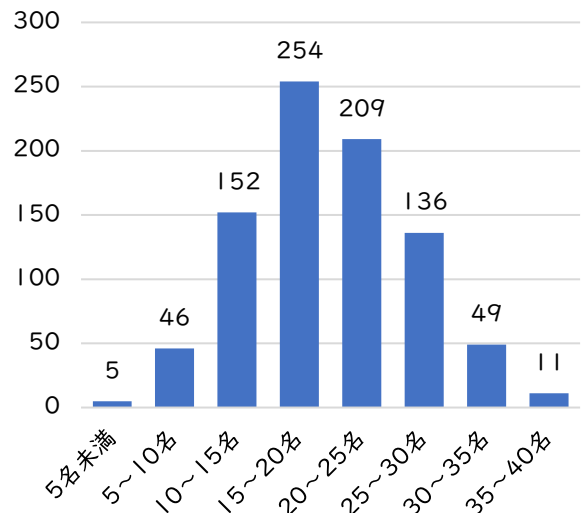


(4) 当該在籍クラスの子どもの数

クラスの規模は15~20名の子ども数が約3割と一番多かった。

図表Ⅱ-2-4

	人数	%
5名未満	5	0.6
5~10名	46	5.3
10~15名	152	17.6
15~20名	254	29.4
20~25名	209	24.2
25~30名	136	15.8
30~35名	49	5.7
35~40名	11	1.3
無回答	1	0.1





## 2) 保育者が「気になる」子どもの行動特徴

本調査では、保育者が「気になる」として抽出した子どもには、どのような行動特徴があるのか、を明らかにするために、以下に挙げた 35 の子どもの行動特徴を示し、それらの行動を子どもがどの程度行っている（行っていた）かについて、5 段階で回答を求めた。

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保育者の話を最後まで聞かない</li> <li>2.他児への関心が乏しく、よく一人で遊ぶ</li> <li>3.「バカ」や「死ね」などの乱暴な言葉を使う</li> <li>4.保育者の身体を触ったり、服の袖をつかむ</li> <li>5.「待ってて」などの指示に従うことができない</li> <li>6.おもちゃや道具を乱暴に扱う</li> <li>7.ポーっとしていることが多い</li> <li>8.手足をそわそわ動かす</li> <li>9.家族と離れた後、長い時間経っても泣きやまない</li> <li>10.好きなことには没頭するが、切り替えができない</li> <li>11.じっと座っていることができない</li> <li>12.保育者の指示を聞き逃し、他児に後れをとる</li> <li>13.次の作業や遊びに移るのが苦手である</li> <li>14.課題の材料を見ると、すぐに手を出す</li> <li>15.気持ちの切り替えが難しい</li> <li>16.いつまでも保育者のそばを離れない</li> <li>17.一度怒ると、なかなか気持ちが収まらない</li> <li>18.保育室や園庭の隅の方で過ごすことが多い</li> <li>19.好きな遊具・場所・生き物にこだわる</li> <li>20.相手の目や顔を見て話さない</li> <li>21.イライラして人や物にやつあたりする</li> <li>22.いつも肌身離さず持ち歩くものがある</li> <li>23.他の子にちょっかいを出す</li> <li>24.好きな活動には取り組むが、そうでない活動には参加しない</li> <li>25.日によって調子のよい時と悪い時の波が激しい</li> <li>26.不満なことがあると大声で泣き叫ぶ</li> <li>27.ゲームや遊びで一番にならないと気がすまない</li> <li>28.クラス全体への指示を聞いておらず、名前を呼んで個別でも伝える必要がある</li> <li>29.みんなと一緒に活動に参加しない</li> <li>30.予定が急に変わると混乱する</li> <li>31.他児の遊びの輪に加わろうとしない</li> <li>32.初めて体験することにひどくしり込みする</li> <li>33.他児をたたいたり、噛んだりする</li> <li>34.気が散りやすく、集中するのが苦手である</li> <li>35.カッとなるとすぐに手や足が出る</li> </ol>	<p>&lt;回答選択肢&gt; 5段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど見られなかった</li> <li>・あまり見られなかった</li> <li>・時々見られた</li> <li>・しばしば見られた</li> <li>・よく見られた</li> </ul>
---	---



## 【データ整理および分析の概要について】

### ■回答数の整理 (→P.11)

35の子どもの行動特徴について、その行動が見られたかどうかについての各項目の回答数および割合は<図表Ⅱ-2-5>のとおりである。

### ■行動の頻度の整理 (→P.11-12)

各項目の得点は

ほとんど見られなかった=1 / あまり見られなかった=2 / 時々見られた=3

しばしば見られた=4 / よく見られた=5

として、各項目の平均値を算出した。<図表Ⅱ-2-5 右欄>

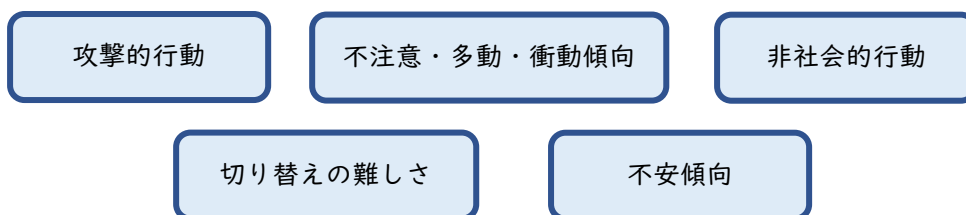
また、<図表Ⅱ-2-6>は「よく見られた・しばしば見られた・時々見られた」すなわち、頻度を問わず「見られた」という回答が多かった順に並べたグラフである。上から見ていくと、保育者が「気になる」子どもの特徴として「見られる」と回答した順に行動特徴を確認できる。

### ■行動特徴の整理 (→P.13)

因子分析を行い、行動特徴をはかるための指標のまとまりを確認した。気になる子どもの行動特徴を表すための項目が5つの指標（因子のまとまり）として分類された。

<図表Ⅱ-2-7>

<抽出された5つの因子尺度>



### ■分析と考察 (→P14-17)

①多くの保育者が「気になる」子どもの行動特徴

→保育者が「気になる」とした子どもの行動特徴の上位項目について

②行動特徴の尺度ごとの分析

→上記の5つの尺度ごとの「気になる」子どもの行動特徴の分析（分布）



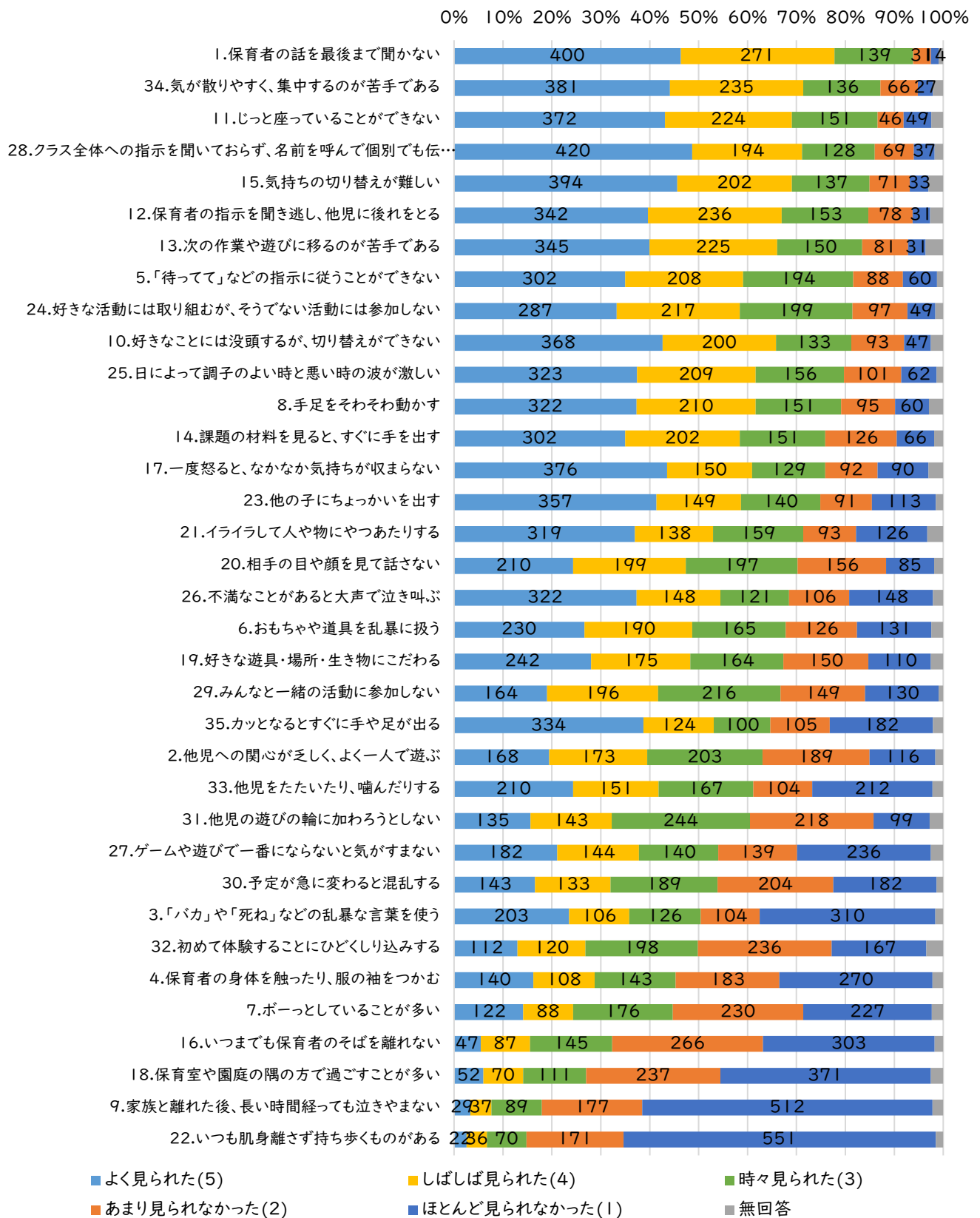
■回答数と割合

図表Ⅱ-2-5 保育者が「気になる」子どもの行動特徴

	人数						%					平均値	標準偏差
	ほとんど見られなかった(一)	あまり見られなかった(二)	時々見られた(三)	しばしば見られた(四)	よく見られた(五)	無回答	ほとんど見られなかった	あまり見られなかった	時々見られた	しばしば見られた	よく見られた		
1.保育者の話を最後まで聞かない	14	31	139	271	400	8	1.6	3.6	16.1	31.4	46.3	4.18	.94
2.他児への関心が乏しく、よく一人で遊ぶ	116	189	203	173	168	14	13.4	21.9	23.5	20.0	19.5	3.10	1.33
3.「バカ」や「死ね」などの乱暴な言葉を使う	310	104	126	106	203	14	35.9	12.1	14.6	12.3	23.5	2.75	1.61
4.保育者の身体を触ったり、服の袖をつかむ	270	183	143	108	140	19	31.3	21.2	16.6	12.5	16.2	2.60	1.46
5.「待ってて」などの指示に従うことができない	60	88	194	208	302	11	7.0	10.2	22.5	24.1	35.0	3.71	1.24
6.おもちゃや道具を乱暴に扱う	131	126	165	190	230	21	15.2	14.6	19.1	22.0	26.7	3.31	1.41
7.ボーっとしていることが多い	227	230	176	88	122	20	26.3	26.7	20.4	10.2	14.1	2.58	1.36
8.手足をそわそわ動かす	60	95	151	210	322	25	7.0	11.0	17.5	24.3	37.3	3.76	1.27
9.家族と離れた後、長い時間経っても泣きやまない	512	177	89	37	29	19	59.3	20.5	10.3	4.3	3.4	1.69	1.05
10.好きなことには没頭するが、切り替えができない	47	93	133	200	368	22	5.4	10.8	15.4	23.2	42.6	3.89	1.24
11.じっと座っていることができない	49	46	151	224	372	21	5.7	5.3	17.5	26.0	43.1	3.98	1.17
12.保育者の指示を聞き逃し、他児に後れをとる	31	78	153	236	342	23	3.6	9.0	17.7	27.3	39.6	3.93	1.14
13.次の作業や遊びに移るのが苦手である	31	81	150	225	345	31	3.6	9.4	17.4	26.1	40.0	3.93	1.15
14.課題の材料を見ると、すぐに手を出す	66	126	151	202	302	16	7.6	14.6	17.5	23.4	35.0	3.65	1.31
15.気持ちの切り替えが難しい	33	71	137	202	394	26	3.8	8.2	15.9	23.4	45.7	4.02	1.15
16.いつまでも保育者のそばを離れない	303	266	145	87	47	15	35.1	30.8	16.8	10.1	5.4	2.19	1.19
17.一度怒ると、なかなか気持ちが収まらない	90	92	129	150	376	26	10.4	10.7	14.9	17.4	43.6	3.75	1.40
18.保育室や園庭の隅の方で過ごすことが多い	371	237	111	70	52	22	43.0	27.5	12.9	8.1	6.0	2.04	1.21
19.好きな遊具・場所・生き物にこだわる	110	150	164	175	242	22	12.7	17.4	19.0	20.3	28.0	3.34	1.40
20.相手の目や顔を見て話さない	85	156	197	199	210	16	9.8	18.1	22.8	23.1	24.3	3.35	1.30
21.イライラして人や物にやつあたりする	126	93	159	138	319	28	14.6	10.8	18.4	16.0	37.0	3.52	1.46
22.いつも肌身離さず持ち歩くものがある	551	171	70	36	22	13	63.8	19.8	8.1	4.2	2.5	1.60	.99
23.他の子にちょっかいを出す	113	91	140	149	357	13	13.1	10.5	16.2	17.3	41.4	3.64	1.44
24.好きな活動には取り組むが、そうでない活動には参加しない	49	97	199	217	287	14	5.7	11.2	23.1	25.1	33.3	3.70	1.21
25.日によって調子のよい時と悪い時の波が激しい	62	101	156	209	323	12	7.2	11.7	18.1	24.2	37.4	3.74	1.28
26.不満なことがあると大声で泣き叫ぶ	148	106	121	148	322	18	17.1	12.3	14.0	17.1	37.3	3.46	1.52
27.ゲームや遊びで一番にならないと気がすまない	236	139	140	144	182	22	27.3	16.1	16.2	16.7	21.1	2.88	1.52
28.クラス全体への指示を聞いておらず、名前を呼んで個別でも伝える必要がある	37	69	128	194	420	15	4.3	8.0	14.8	22.5	48.7	4.05	1.17
29.みんなと一緒に活動に参加しない	130	149	216	196	164	8	15.1	17.3	25.0	22.7	19.0	3.13	1.33
30.予定が急に変わると混乱する	182	204	189	133	143	12	21.1	23.6	21.9	15.4	16.6	2.82	1.38
31.他児の遊びの輪に加わろうとしない	99	218	244	143	135	24	11.5	25.3	28.3	16.6	15.6	3.00	1.24
32.初めて体験することにひどくしり込みする	167	236	198	120	112	30	19.4	27.3	22.9	13.9	13.0	2.73	1.30
33.他児をたたいたり、噛んだりする	212	104	167	151	210	19	24.6	12.1	19.4	17.5	24.3	3.05	1.52
34.気が散りやすく、集中するのが苦手である	27	66	136	235	381	18	3.1	7.6	15.8	27.2	44.1	4.04	1.10
35.カッとなるとすぐに手や足が出る	182	105	100	124	334	18	21.1	12.2	11.6	14.4	38.7	3.38	1.60

## ■頻度順グラフ

図表Ⅱ-2-6 保育者が「気になる」子どもの行動特徴  
頻度順（よく・しばしば・時々「見られた」順）





■行動特徴の整理

図表Ⅱ-2-7 保育者が「気になる」子どもの行動特徴 因子分析表

	因子				
	1	2	3	4	5
<b>因子1【攻撃的行動】<math>\alpha = .91</math></b>					
35. カッとなるとすぐに手や足が出る	.91	.02	.03	-.03	-.03
33. 他児をたたいたり、噛んだりする	.91	.04	.10	-.14	-.01
3. 「バカ」や「死ね」などの乱暴な言葉を使う	.76	-.16	.01	.04	-.03
21. イライラして人や物にやつあたりする	.75	-.10	.01	.23	.01
23. 他の子にちょっかいを出す	.71	.28	-.15	-.24	-.04
6. おもちゃや道具を乱暴に扱う	.68	.24	.05	-.02	-.06
27. ゲームや遊びで一番にならないと気がすまない	.56	-.12	-.08	.27	.00
<b>因子2【不注意・多動・衝動傾向】<math>\alpha = .82</math></b>					
11. じっと座っていることができない	.09	.72	-.13	.07	.11
34. 気が散りやすく、集中するのが苦手である	.10	.67	.02	-.15	.03
1. 保育者の話を最後まで聞かない	.03	.62	-.01	.08	-.10
14. 課題の材料を見ると、すぐに手を出す	.08	.60	-.16	.10	.13
5. 「待ってて」などの指示に従うことができない	.18	.59	.05	.04	.10
8. 手足をそわそわ動かす	-.06	.58	-.15	-.01	.21
12. 保育者の指示を聞き逃し、他児に後れをとる	-.33	.55	.12	.15	-.10
28. クラス全体への指示を聞いておらず、名前を呼んで個別でも伝える必要がある	-.19	.49	.14	.14	-.17
<b>因子3【非社会的行動】<math>\alpha = .79</math></b>					
31. 他児の遊びの輪に加わろうとしない	.00	-.01	.90	-.13	.04
2. 他児への関心が乏しく、よく一人で遊ぶ	-.28	.08	.65	-.03	.04
32. 初めて体験することにひどくしり込みする	.06	-.08	.63	.00	.09
18. 保育室や園庭の隅の方で過ごすことが多い	-.01	-.27	.59	.05	.11
29. みんなと一緒に活動に参加しない	.29	.05	.59	.13	-.03
24. 好きな活動には取り組むが、そうでない活動には参加しない	.33	.09	.38	.18	-.09
20. 相手の目や顔を見て話さない	-.12	.32	.37	-.13	-.11
<b>因子4【切り替えの難しさ】<math>\alpha = .79</math></b>					
15. 気持ちの切り替えが難しい	.08	.01	-.12	.85	-.01
10. 好きなことには没頭するが、切り替えができない	-.05	.06	-.10	.79	-.07
13. 次の作業や遊びに移るのが苦手である	-.10	.17	.12	.60	-.06
26. 不満なことがあると大声で泣き叫ぶ	.23	-.01	.04	.44	.17
30. 予定が急に変わると混乱する	.05	-.07	.32	.40	.05
19. 好きな遊具・場所・生き物にこだわる	-.02	.05	.16	.38	.08
<b>因子5【不安傾向】<math>\alpha = .61</math></b>					
16. いつまでも保育者のそばを離れない	-.12	.01	.19	.04	.75
4. 保育者の身体を触ったり、服の袖をつかむ	.00	.21	.03	-.05	.67
因子間相関					
		.24	-.15	.40	.37
			.31	.39	-.06
				.44	-.04
					.26



## ■分析と考察

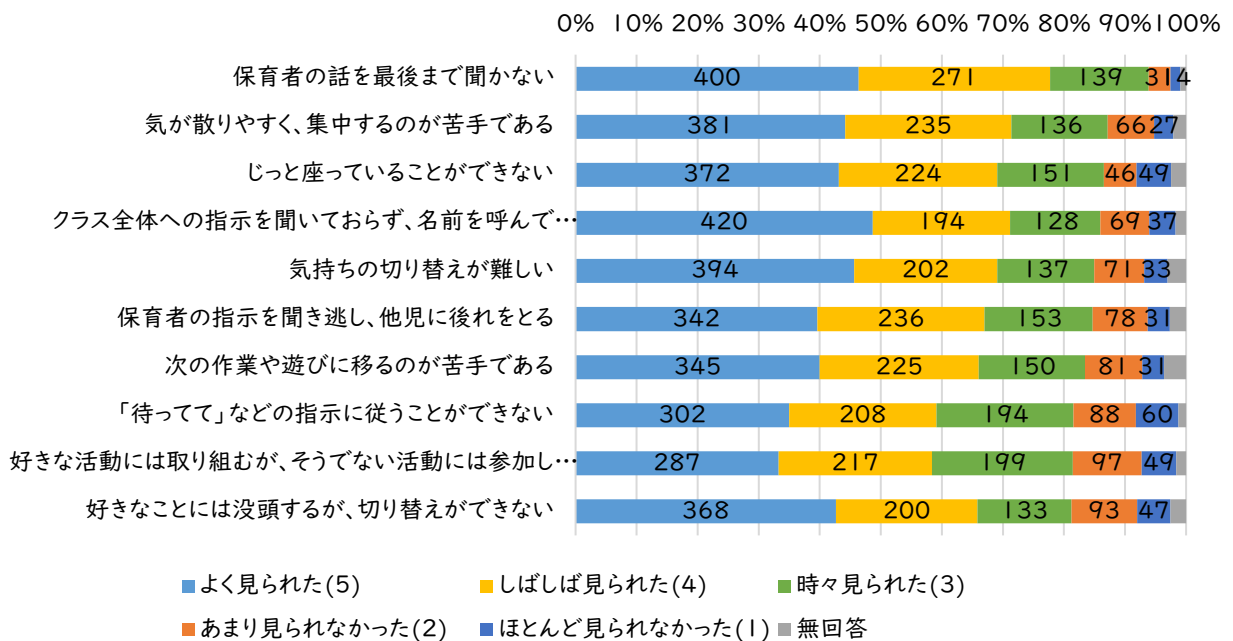
### ① 多くの保育者が「気になる」子どもの行動特徴

保育者が「気になる」子どもの行動特徴として「見られた」と回答した項目の上位10項目の人数と割合は<図表Ⅱ-2-8>のとおり。

因子分析によって【不注意・多動・衝動傾向（因子2）】に分類された行動が多くみられ、次いで【切り替えの難しさ（因子4）】に分類された項目がみられる。いずれも「見られる」と選択した割合は8割を超えており、多くの保育者が子どもの「行動調整」「感情調整」の難しさに関する行動特徴について「気になる」と回答していることがわかる。

図表Ⅱ-2-8 保育者が「気になる」子どもの行動特徴 上位10項目（人数・割合）

	「見られた」 回答人数	%	因子
保育者の話を最後まで聞かない	810	93.9	因子2
気が散りやすく、集中するのが苦手である	752	87.1	因子2
じっと座っていることができない	747	86.6	因子2
クラス全体への指示を聞いておらず、名前を呼んで個別でも伝える必要がある	742	86.0	因子2
気持ちの切り替えが難しい	733	84.9	因子4
保育者の指示を聞き逃し、他児に後れをとる	731	84.7	因子2
次の作業や遊びに移るのが苦手である	720	83.4	因子4
「待ってて」などの指示に従うことができない	704	81.6	因子2
好きな活動には取り組むが、そうでない活動には参加しない	703	81.5	因子3
好きなことには没頭するが、切り替えができない	701	81.2	因子4







② 行動特徴の尺度ごとの分析

それぞれの尺度ごとの平均値（範囲1-5，真ん中の値3）は<図表Ⅱ-2-9>の通り。  
平均値が一番高いのは【不注意・多動・衝動傾向】、反対に【不安傾向】は平均値が2.39と3.0を  
を下回っている。尺度ごとの得点分布を以下に示す。

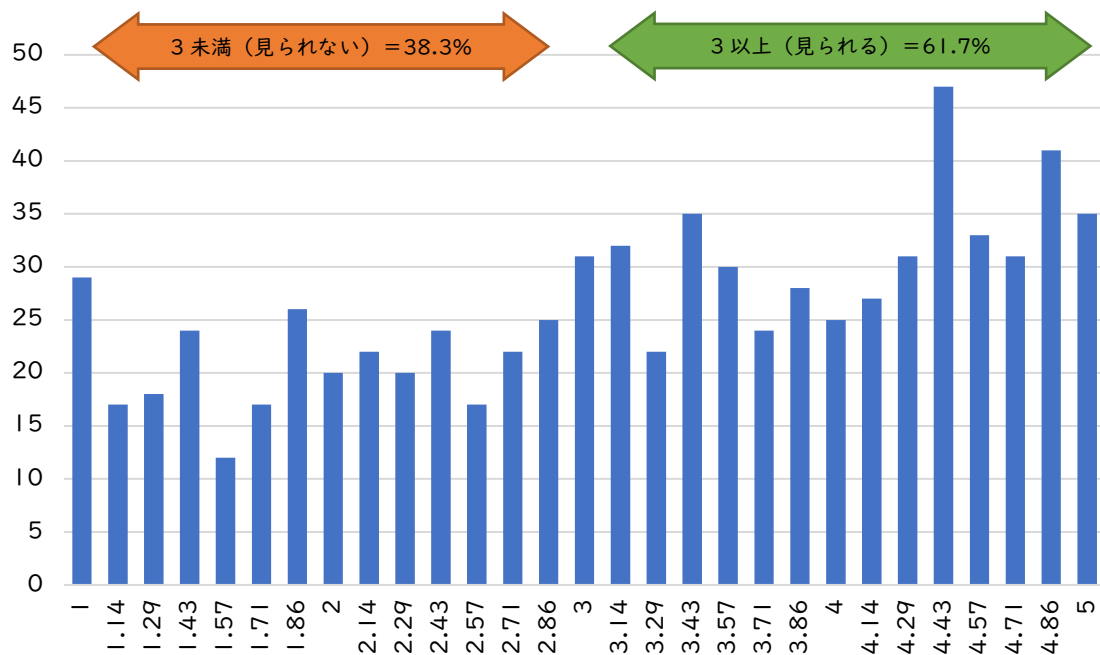
図表Ⅱ-2-9 5つの尺度ごとの平均値

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	回答数
攻撃的行動	3.24	1.20	1	5	765
不注意・多動・衝動傾向	3.92	.77	1	5	764
非社会的行動	3.00	.84	1	5	761
切り替えの難しさ	3.57	.91	1	5	759
不安傾向	2.39	1.13	1	5	831

【攻撃的行動】

得点分布をみると、1~5点の範囲でまんべんなく分布していることがわかる。平均値3.0未満が回答数の38.3%であり、保育者が「気になる」子どもの行動特徴としては、約4割は【攻撃的行動】については「見られない」と回答していることがわかる。

図表Ⅱ-2-10【攻撃的行動】得点分布



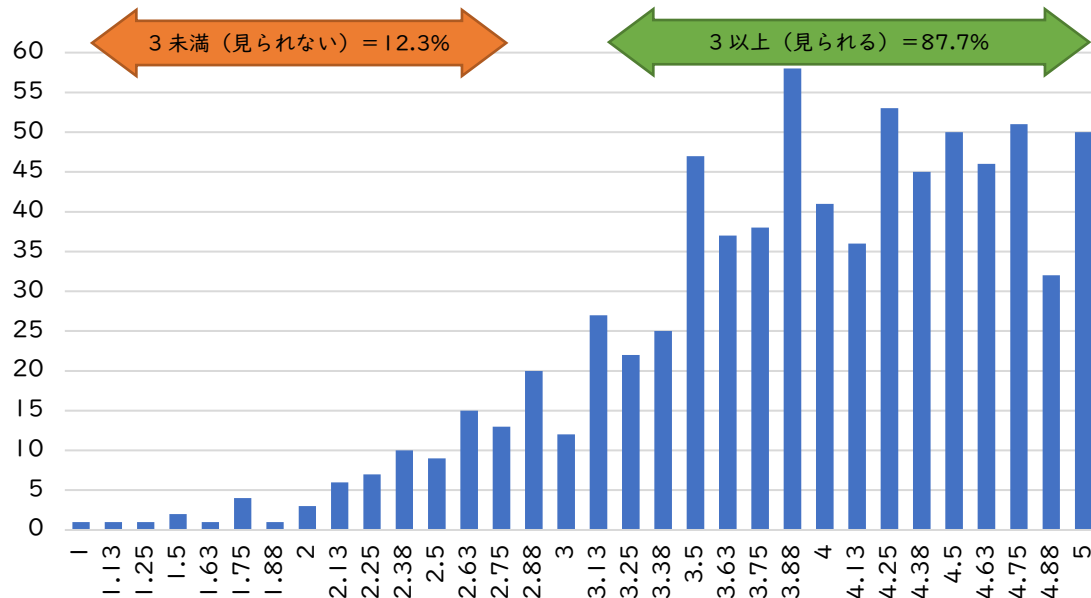




【不注意・多動・衝動傾向】

本尺度の得点に関しては、平均値 3.0 未満が回答数の 12.3%、3.0 以上が 87.7%であり、約 9 割が【不注意・多動・衝動傾向】が見られると回答していることがわかる。多くの保育者が「気になる」子どもの行動特徴として【不注意・多動・衝動傾向】を挙げていることが明らかになった。

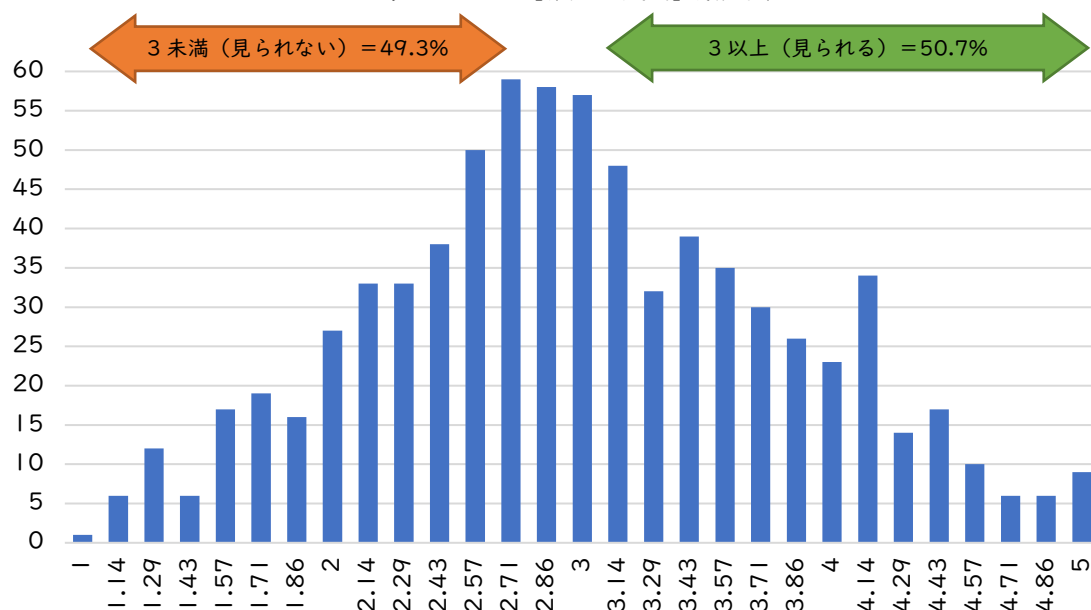
図表Ⅱ-2-11 【不注意・多動・衝動傾向】得点分布



【非社会的行動】

本尺度の得点については、平均値 3.0 未満が回答数の 49.3%、平均値 3.0 以上が 50.7%、すなわち、【非社会的行動】が見られる子どもと見られない子どもが約半数ずつであるということがわかる。

図表Ⅱ-2-12 【非社会的行動】得点分布

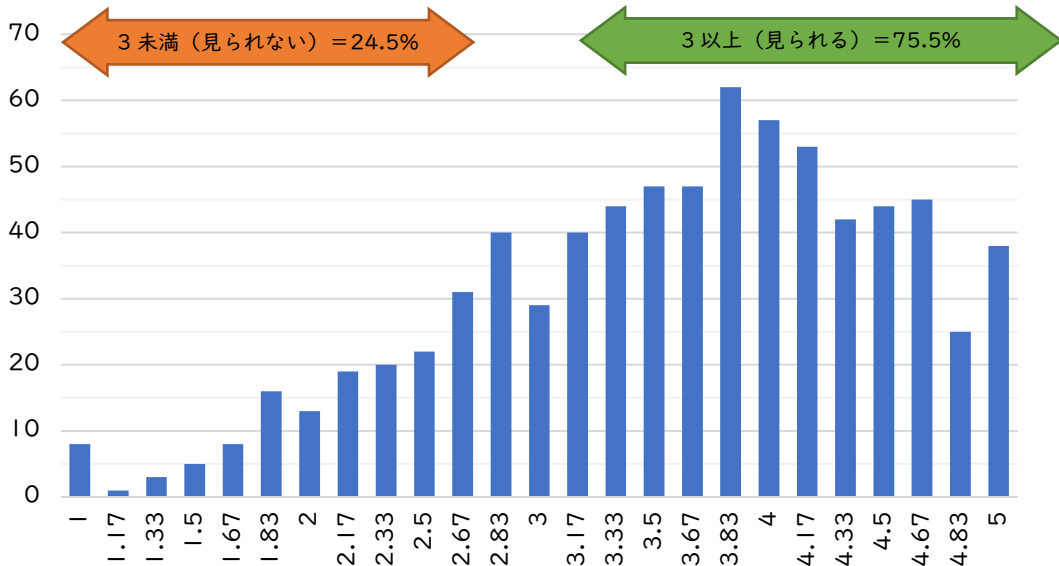




【切り替えの難しさ】

本尺度の得点に関しては、平均値 3.0 未満が回答数の 24.5%、3.0 以上が 75.5%であった。4 人のうち 3 人の保育者が「気になる」子どもの行動特徴として【切り替えの難しさ】を挙げていることがわかり、【不注意・多動・衝動傾向】に次いで、多くの保育者がこの行動特徴が「気になる」と感じていることがわかる。

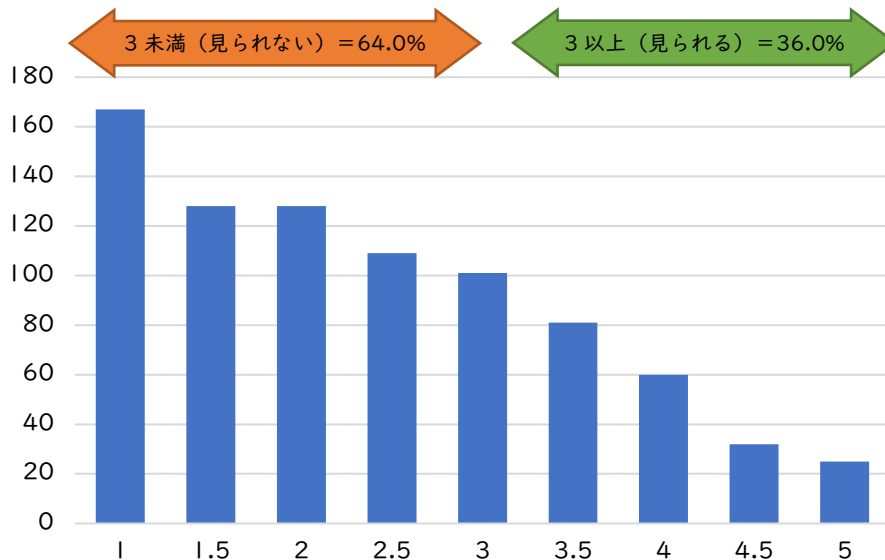
図表Ⅱ-2-13 【切り替えの難しさ】得点分布



【不安傾向】

本尺度については平均値 3.0 未満が回答者の 64.0%、3.0 以上が 36.0%であり、他の尺度の得点分布と異なり「見られない」と回答した保育者が多いことがわかる。64%の保育者が挙げた「気になる」子どもはその行動特徴として【不安傾向】を示していないということが明らかとなった。

図表Ⅱ-2-14 【不安傾向】得点分布





### 3. 「気になる」子どもの保育について

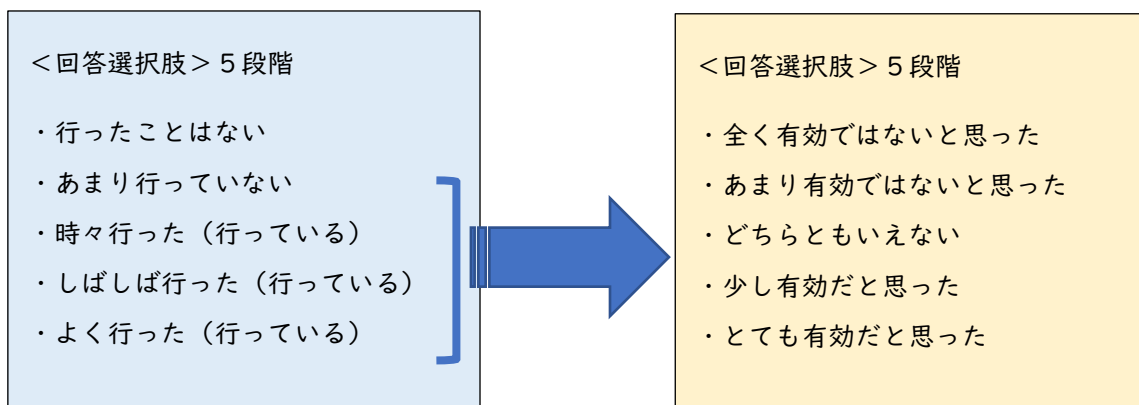
#### 1) 保育者の対応とその有効性の認識

本調査では、保育者が「気になる」として抽出した子どもに対して、どのような援助行動（対応）を行ったか、そしてそれはどの程度効果があった（有効性）と保育者は認識しているのかを明らかにするために、次ページに挙げた 35 項目の援助行動に対して、それぞれ 5 段階で回答を求めた。

なお、その対応を「行ったことはない」と回答した項目については、有効性については回答を求めている。

#### 【援助行動（対応）】

#### 【効果認識（有効性）】





- 1.子どもの行動を客観的に観察する
- 2.子どもの気持ちを理解していることを子どもに伝える
- 3.子どもの気持ちを受け止める
- 4.壁面を整備し刺激を減らす
- 5.子どもの特徴に合わせて保育室内の物の配置を変える
- 6.子どもの気になる行動の意味を考える
- 7.他児の気持ちを当該児に代弁して伝える
- 8.保護者と定期的な話し合いの機会を持つ
- 9.望ましくない行動が見られたときに注意する
- 10.子どもの特徴に応じて伝え方を工夫する
- 11.当該児がクラス集団の中で他児と共に楽しめる活動を増やす
- 12.個別で関わる
- 13.家で対応してほしいことを保護者に伝える
- 14.子ども同士の共感と認め合いを大切にする
- 15.カームダウン・クールダウンスペース（気持ちを落ち着かせるための決まった場所）を設ける
- 16.どういう状況で子どもの気になる行動が起きるかを振り返る
- 17.気持ちが落ち着いたり満足したりするまで待つ
- 18.家での様子を保護者に聴く
- 19.子どもが抱えている気持ちを言葉で表現する
- 20.座る席の場所を工夫する
- 21.園での子どもの様子を保護者に伝える
- 22.クラス集団を落ち着かせるように工夫する
- 23.保護者の思いや要望を聴く
- 24.他児に当該児の良さを伝える
- 25.専門機関の意見を聞く
- 26.園長・主任等と保育担当者との間で情報を共有する
- 27.クラスの保育の方法（全体へのルールの設定・伝え方など）を見直す
- 28.子どもの気持ちを落ち着かせる
- 29.望ましくない行動が起こる前に止める
- 30.職員全体で話し合いの場を持つ
- 31.クラスの一人一人の得意に気づく活動をする
- 32.望ましい行動を行ったときにほめる
- 33.クラスの保護者にクラスの様子や保育者の思いを伝える
- 34.保育担当者間で関わり方や連携について話し合う
- 35.ルールをしっかりと伝える



## 【データ整理および分析の概要について】

### ■援助行動（対応）実行の回答数の整理、行動の頻度の整理（⇒P.22-24）

35の援助行動（対応）について、その対応を行ったかどうかおよびその頻度についての各項目の回答数および割合は<図表Ⅱ-3-1><図表Ⅱ-3-2>の通りである。

各項目の得点は、

行ったことはない＝1／あまり行っていない＝2／時々行った（行っている）＝3

しばしば行った（行っている）＝4／よく行った（行っている）＝5

として、各項目の平均値を算出した。<図表Ⅱ-3-1 右欄>

また<図表Ⅱ-3-2>は、「よく行った・しばしば行った」という回答の多かった順に並べたものである。すなわち、上から項目を見ていくことで、回答した保育者が「気になる」子どもに対して比較的多く行った援助行動（対応）を順に確認できる。

### ■援助行動（対応）の効果（有効性）認識の整理（⇒P.25-27）

35の援助行動（対応）について、その対応を行った保育者は、その効果（有効性）についてどのように認識しているのかの回答数および割合は<図表Ⅱ-3-3><図表Ⅱ-3-4>のとおりである。

各項目の得点は、

全く有効ではないと思った＝1／あまり有効ではないと思った＝2／

どちらともいえない＝3／少し有効だと思った＝4／とても有効だと思った＝5

として各項目の平均値を算出した。<図表Ⅱ-3-3 右欄>

また、<図表Ⅱ-3-4>は「とても有効だと思った・少し有効だと思った」という回答の多かった順に並べたグラフである。上から見ていくことで、保育者が対応を行ったうえで、それを有効だと多くの人が感じた順に項目を確認できる。

### ■保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）の整理（⇒P.28）

因子分析を行い、援助行動に関する指標のまとまりを確認した。

保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）を表すための項目が7つの指標（因子のまとまり）として分類された。

<図表Ⅱ-3-5>

<抽出された7つの因子尺度>

保護者との連携

子ども理解

教育的かかわり

園内外での連携

クラス運営

物的環境の整備

カームダウン



■分析と考察 (⇒P.29-37)

- ① 多くの保育者が「(よく・しばしば) 行った」援助行動について
- ② 1割以上の保育者が「行っていない」援助行動について
- ③ 行ったうえで「効果がある(有効である)」と認識している援助行動について
- ④ 援助行動(対応)の尺度ごとの分析(分布)
- ⑤ 援助行動(対応)尺度ごとの有効性(効果)認識の分析(分布)



■援助行動（対応）実行の回答数と割合

図表Ⅱ-3-1 保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）の実行

	人数						%					平均値	標準偏差
	行ったことはない (A)	あまり行っていない (B)	時々行った（行っている） (C)	しばしば行った（行っている） (D)	よく行った（行っている） (E)	無回答	行ったことはない	あまり行っていない	時々行った（行っている）	しばしば行った（行っている）	よく行った（行っている）		
1. 子どもの行動を客観的に観察する	1	13	116	339	365	29	0.1	1.5	13.4	39.3	42.3	4.26	.76
2. 子どもの気持ちを理解していることを子どもに伝える	4	11	106	338	387	17	0.5	1.3	12.3	39.2	44.8	4.29	.77
3. 子どもの気持ちを受け止める	0	5	41	245	548	24	0	0.6	4.8	28.4	63.5	4.59	.61
4. 壁面を整備し刺激を減らす	86	213	183	168	195	18	10.0	24.7	21.2	19.5	22.6	3.20	1.32
5. 子どもの特徴に合わせて保育室内の物の配置を変える	57	180	208	221	185	12	6.6	20.9	24.1	25.6	21.4	3.35	1.22
6. 子どもの気になる行動の意味を考える	2	9	87	281	458	26	0.2	1.0	10.1	32.6	53.1	4.41	.74
7. 他児の気持ちを当該児に代弁して伝える	9	10	53	220	551	20	1.0	1.2	6.1	25.5	63.8	4.53	.76
8. 保護者と定期的な話し合いの機会を持つ	18	73	221	265	274	12	2.1	8.5	25.6	30.7	31.7	3.83	1.04
9. 望ましくない行動が見られたときに注意する	4	24	104	286	426	19	0.5	2.8	12.1	33.1	49.4	4.31	.83
10. 子どもの特徴に応じて伝え方を工夫する	0	5	59	265	516	18	0	0.6	6.8	30.7	59.8	4.53	.65
11. 当該児がクラス集団の中で他児と共に楽しめる活動を増やす	5	39	220	402	186	11	0.6	4.5	25.5	46.6	21.6	3.85	.83
12. 個別で関わる	2	6	70	184	586	15	0.2	0.7	8.1	21.3	67.9	4.59	.69
13. 家で対応してほしいことを保護者に伝える	10	125	313	216	182	17	1.2	14.5	36.3	25.0	21.1	3.51	1.02
14. 子ども同士の共感と認め合いを大切にする	3	31	182	346	283	18	0.3	3.6	21.1	40.1	32.8	4.04	.85
15. カームダウン・クールダウンスペース（気持ちを落ち着かせるための決まった場所）を設ける	92	156	164	176	257	18	10.7	18.1	19.0	20.4	29.8	3.41	1.37
16. どういう状況で子どもの気になる行動が起きるかを振り返る	2	17	154	330	344	16	0.2	2.0	17.8	38.2	39.9	4.18	.81
17. 気持ちが落ち着いたり満足したりするまで待つ	6	25	143	294	382	13	0.7	2.9	16.6	34.1	44.3	4.20	.87
18. 家での様子を保護者に聴く	2	25	171	278	378	9	0.2	2.9	19.8	32.2	43.8	4.18	.87
19. 子どもが抱いている気持ちを言葉で表現する	2	22	126	344	353	16	0.2	2.5	14.6	39.9	40.9	4.21	.81
20. 座る席の場所を工夫する	18	30	92	167	539	17	2.1	3.5	10.7	19.4	62.5	4.39	.96



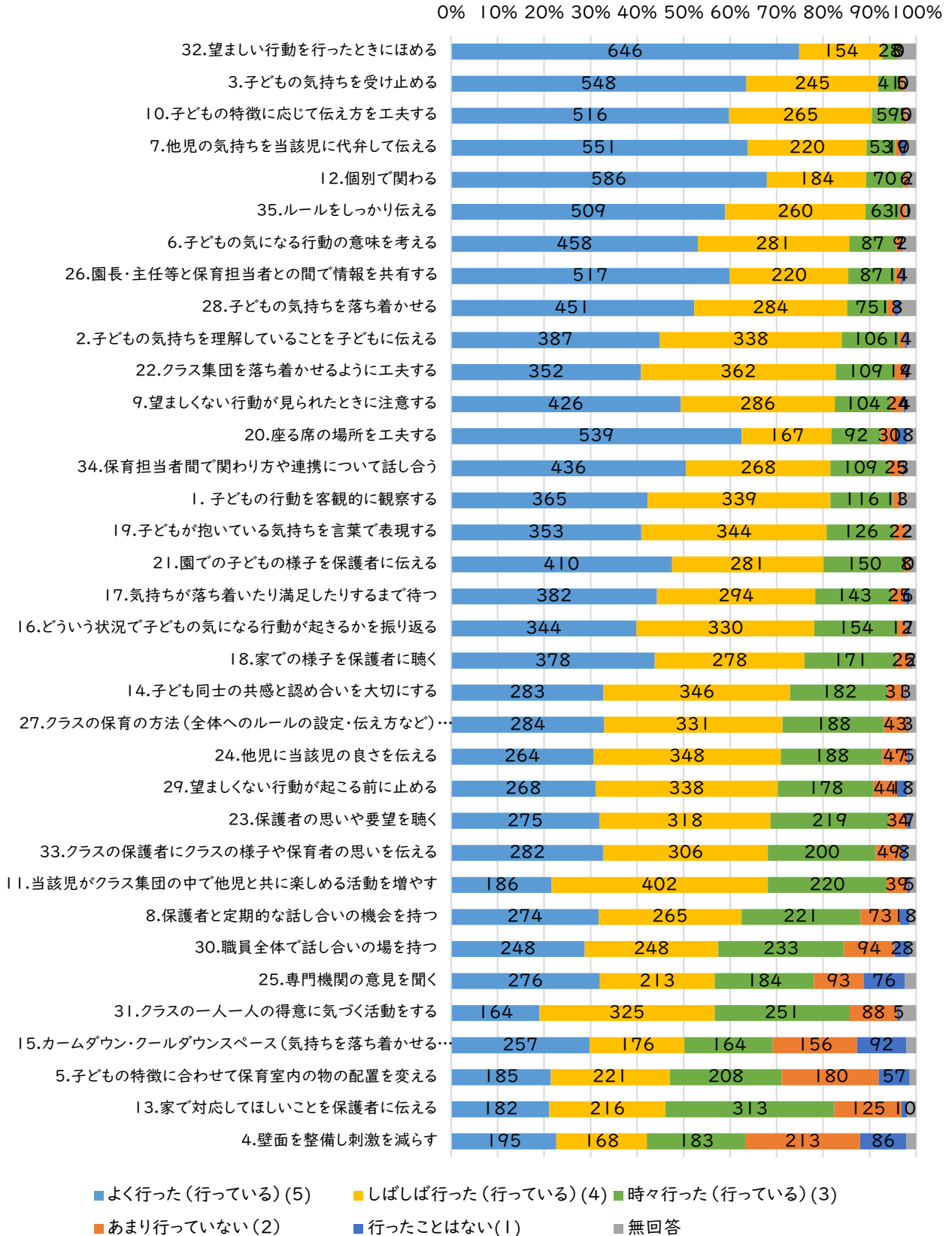
	人数						%					平均値	標準偏差
	行ったことはない(一)	あまり行っていない(二)	時々行った(行っている)(三)	しばしば行った(行っている)(四)	よく行った(行っている)(五)	無回答	行ったことはない	あまり行っていない	時々行った(行っている)	しばしば行った(行っている)	よく行った(行っている)		
21. 園での子どもの様子を保護者に伝える	0	8	150	281	410	14	0	0.9	17.4	32.6	47.5	4.29	.78
22. クラス集団を落ち着かせるように工夫する	4	19	109	362	352	17	0.5	2.2	12.6	41.9	40.8	4.23	.79
23. 保護者の思いや要望を聴く	7	34	219	318	275	10	0.8	3.9	25.4	36.8	31.9	3.96	.90
24. 他児に当該児の良さを伝える	5	47	188	348	264	11	0.6	5.4	21.8	40.3	30.6	3.96	.90
25. 専門機関の意見を聞く	76	93	184	213	276	21	8.8	10.8	21.3	24.7	32.0	3.62	1.29
26. 園長・主任等と保育担当者との間で情報を共有する	4	11	87	220	517	24	0.5	1.3	10.1	25.5	59.9	4.47	.77
27. クラスの保育の方法（全体へのルールの設定・伝え方など）を見直す	3	43	188	331	284	14	0.3	5.0	21.8	38.4	32.9	4.00	.89
28. 子どもの気持ちを落ち着かせる	8	13	75	284	451	32	0.9	1.5	8.7	32.9	52.3	4.39	.79
29. 望ましくない行動が起こる前に止める	18	44	178	338	268	17	2.1	5.1	20.6	39.2	31.1	3.94	.96
30. 職員全体で話し合いの場を持つ	28	94	233	248	248	12	3.2	10.9	27.0	28.7	28.7	3.70	1.10
31. クラスの一人一人の得意に気づく活動をする	5	88	251	325	164	30	0.6	10.2	29.1	37.7	19.0	3.67	.93
32. 望ましい行動を行ったときにほめる	0	3	28	154	646	32	0	0.3	3.2	17.8	74.9	4.74	.53
33. クラスの保護者にクラスの様子や保育者の思いを伝える	8	49	200	306	282	18	0.9	5.7	23.2	35.5	32.7	3.95	.94
34. 保育担当者間で関わり方や連携について話し合う	3	25	109	268	436	22	0.3	2.9	12.6	31.1	50.5	4.32	.84
35. ルールをしっかりと伝える	0	11	63	260	509	20	0	1.3	7.3	30.1	59.0	4.50	.69





## ■実行頻度順グラフ

図表Ⅱ-3-2 保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）  
実行頻度順（よく・しばしば「行った」＝比較的多く行った順）





■援助行動（対応）の効果（有効性）認識：回答数と割合

図表Ⅱ-3-3 保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）の有効性認識

	人数						%					平均値	標準偏差
	全く有効ではないと思った(一)	あまり有効ではないと思った(二)	どちらともいえない(三)	少し有効だと思った(四)	とても有効だと思った(五)	欠損値(*)	全く有効ではないと思った(一)	あまり有効ではないと思った(二)	どちらともいえない(三)	少し有効だと思った(四)	とても有効だと思った(五)		
1. 子どもの行動を客観的に観察する	1	17	117	328	333	37	0.1	2.0	14.0	39.4	40.0	4.22	.78
2. 子どもの気持ちを理解していることを子どもに伝える	2	32	124	312	341	31	0.2	3.8	14.7	37.1	40.5	4.18	.85
3. 子どもの気持ちを受け止める	1	19	44	221	517	37	0.1	2.3	5.2	26.3	61.6	4.54	.72
4. 壁面を整備し刺激を減らす	11	47	212	236	167	86	1.4	6.2	27.9	31.1	22.0	3.74	.96
5. 子どもの特徴に合わせて保育室内の物の配置を変える	7	52	192	261	220	62	0.9	6.5	24.2	32.9	27.7	3.87	.96
6. 子どもの気になる行動の意味を考える	2	14	74	284	428	33	0.2	1.7	8.9	34.0	51.3	4.04	.75
7. 他児の気持ちを当該児に代弁して伝える	8	49	128	298	315	36	1.0	5.9	15.3	35.7	37.8	4.08	.94
8. 保護者と定期的な話し合いの機会を持つ	13	51	114	248	370	37	1.6	6.1	13.7	29.8	44.4	4.14	1.00
9. 望ましくない行動が見られたときに注意する	12	112	197	286	201	32	1.4	13.3	23.5	34.0	23.9	3.68	1.04
10. 子どもの特徴に応じて伝え方を工夫する	0	14	67	285	445	34	0	1.7	7.9	33.7	52.7	4.43	.72
11. 当該児がクラス集団の中で他児と共に楽しめる活動を増やす	0	32	179	333	276	27	0	3.8	21.1	39.3	32.6	4.04	.84
12. 個別で関わる	1	7	41	165	608	24	0.1	0.8	4.8	19.5	71.9	4.67	.62
13. 家で対応してほしいことを保護者に伝える	21	75	250	248	196	46	2.5	9.0	29.9	29.7	23.4	3.66	1.04
14. 子ども同士の共感と認め合いを大切にす	2	22	146	320	317	35	0.2	2.6	17.3	38.0	37.6	4.15	.83
15. カームダウン・クールダウンスペース（気持ちを落ち着かせるための決まった場所）を設ける	7	29	115	202	336	64	0.9	3.9	15.3	26.8	44.6	4.21	.93
16. どういう状況で子どもの気になる行動が起きるかを振り返る	1	19	57	276	461	31	0.1	2.2	6.7	32.7	54.6	4.45	.74
17. 気持ちが落ち着いたり満足したりするまで待つ	2	18	99	281	409	35	0.2	2.1	11.7	33.3	48.5	4.33	.79
18. 家での様子を保護者に聴く	15	35	119	294	356	33	1.8	4.1	14.0	34.5	41.8	4.15	.95
19. 子どもが抱えている気持ちを言葉で表現する	3	29	125	280	380	28	0.4	3.4	14.8	33.1	45.0	4.23	.86
20. 座る席の場所を工夫する	8	22	90	228	441	39	1.0	2.7	10.9	27.5	53.3	4.36	.87



	人数						%					平均値	標準偏差
	全く有効ではないと思った(一)	あまり有効ではないと思った(二)	どちらともいえない(三)	少し有効だと思った(四)	とても有効だと思った(五)	欠損値(*)	全く有効ではないと思った(一)	あまり有効ではないと思った(二)	どちらともいえない(三)	少し有効だと思った(四)	とても有効だと思った(五)		
21. 園での子どもの様子を保護者に伝える	12	43	132	291	335	36	1.4	5.1	15.5	34.3	39.5	4.10	.95
22. クラス集団を落ち着かせるように工夫する	2	17	123	308	366	26	0.2	2.0	14.6	36.6	43.5	4.25	.80
23. 保護者の思いや要望を聴く	8	37	167	307	297	30	0.9	4.4	19.7	36.3	35.1	4.04	.92
24. 他児に当該児の良さを伝える	3	19	121	324	344	36	0.4	2.2	14.3	38.3	40.6	4.22	.81
25. 専門機関の意見を聞く	4	17	56	199	430	60	0.5	2.2	7.3	26	56.1	4.46	.79
26. 園長・主任等と保育担当者との間で情報を共有する	1	6	44	227	521	36	0.1	0.7	5.3	27.2	62.4	4.58	.64
27. クラスの保育の方法(全体へのルールの設定・伝え方など)を見直す	2	9	74	286	439	36	0.2	1.1	8.7	33.8	51.9	4.42	.72
28. 子どもの気持ちを落ち着かせる	3	8	48	248	488	28	0.4	1.0	5.8	30.1	59.3	4.52	.69
29. 望ましくない行動が起こる前に止める	7	19	145	239	383	35	0.8	2.3	17.5	28.9	46.3	4.23	.89
30. 職員全体で話し合いの場を持つ	4	12	75	269	424	39	0.5	1.5	9.1	32.7	51.5	4.40	.77
31. クラスの一人一人の得意に気づく活動をする	2	5	135	306	333	47	0.2	0.6	16.3	37.0	40.2	4.23	.77
32. 望ましい行動を行ったときにほめる	2	6	32	151	615	25	0.2	0.7	3.9	18.2	74.0	4.70	.60
33. クラスの保護者にクラスの様子や保育者の思いを伝える	3	16	143	277	354	44	0.4	1.9	17.1	33.1	42.3	4.21	.84
34. 保育担当者間で関わり方や連携について話し合う	2	9	33	211	552	31	0.2	1.1	3.9	25.2	65.9	4.61	.65
35. ルールをしっかり伝える	3	19	95	236	460	30	0.4	2.3	11.3	28	54.6	4.39	.81

(註)

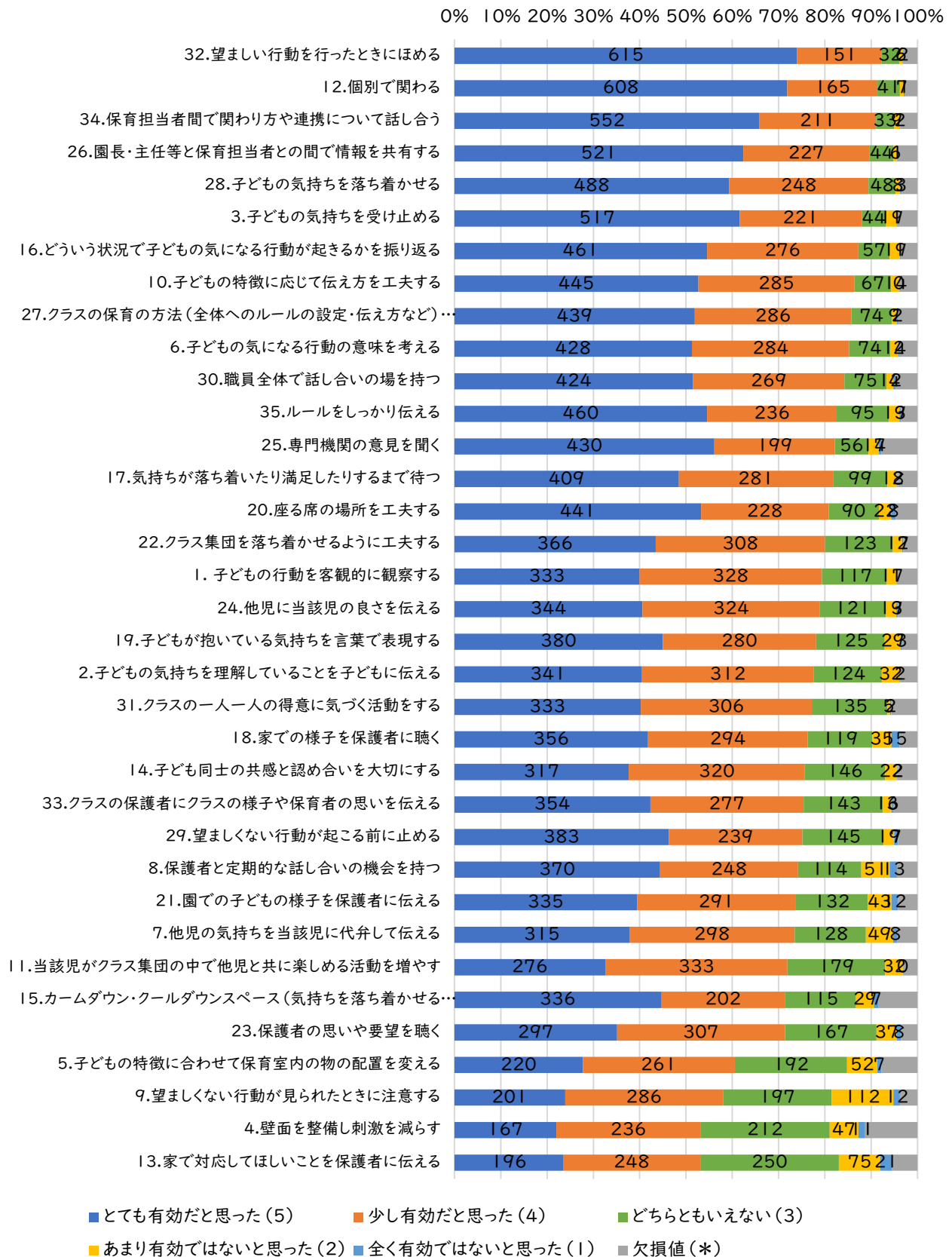
\* 「援助行動(対応)」設問で「行ったことはない」人のデータを除いて分析

\* 「欠損値」= 「行った」人のうち有効性について無回答の人数



## ■援助行動（対応）の効果（有効性）認識：効果認識割合順グラフ

図表Ⅱ-3-4 保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）の効果（有効性）認識  
 対応したひとのうち効果があったと認識している割合順（とても・少し「有効だと思った」順）





■保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）の整理

図表Ⅱ-3-5 保育者の「気になる」子どもへの援助行動 因子分析表

	因子						
	1	2	3	4	5	6	7
<b>因子1【保護者との連携】（<math>\alpha=.86</math>）</b>							
18. 家での様子を保護者に聴く	.86	.06	.05	-.04	-.11	-.05	.05
21. 園での子どもの様子を保護者に伝える	.84	-.01	.09	-.09	-.03	-.06	.04
8. 保護者と定期的な話し合いの機会を持つ	.68	.02	-.12	.13	.02	.15	-.02
23. 保護者の思いや要望を聴く	.67	.03	-.03	.05	.18	-.08	-.05
13. 家に対応してほしいことを保護者に伝える	.62	-.12	.05	.02	.08	.08	-.02
<b>因子2【子ども理解】（<math>\alpha=.82</math>）</b>							
2. 子どもの気持ちを理解していることを子どもに伝える	-.03	.78	-.09	-.05	.14	.03	-.13
3. 子どもの気持ちを受け止める	-.01	.70	-.04	-.11	.06	-.08	.09
6. 子どもの気になる行動の意味を考える	-.03	.53	.00	.21	-.08	.13	.05
10. 子どもの特徴に応じて伝え方を工夫する	.02	.43	.24	.02	-.08	.04	.06
19. 子どもが抱えている気持ちを言葉で表現する	.09	.42	.13	-.13	.15	-.06	.19
16. どういう状況で子どもの気になる行動が起きるかを振り返る	-.01	.37	-.07	.25	-.09	.01	.32
7. 他児の気持ちを当該児に代弁して伝える	-.02	.36	.34	-.04	.01	.11	-.07
1. 子どもの行動を客観的に観察する	-.05	.34	-.06	.14	.11	.01	.10
<b>因子3【教育的かわり】（<math>\alpha=.63</math>）</b>							
9. 望ましくない行動が見られたときに注意する	.09	-.08	.64	-.05	-.17	-.01	-.03
35. ルールをしっかりと伝える	-.07	.01	.57	.19	.10	-.13	.01
32. 望ましい行動を行ったときにほめる	-.01	.19	.56	-.06	.09	-.04	-.07
22. クラス集団を落ち着かせるように工夫する	.00	-.11	.36	-.16	.28	.18	.21
<b>因子4【園内外での連携】（<math>\alpha=.74</math>）</b>							
30. 職員全体で話し合いの場を持つ	-.06	-.11	-.14	.74	.11	-.09	.10
34. 保育担当者間で関わり方や連携について話し合う	.05	.14	.20	.66	-.04	.01	-.22
26. 園長・主任等と保育担当者との間で情報を共有する	.12	.06	.01	.65	-.03	-.09	-.02
27. クラスの保育の方法（全体へのルールの設定・伝え方など）を見直す	-.10	-.08	.10	.43	.22	.11	.13
25. 専門機関の意見を聞く	.24	-.09	-.02	.36	-.06	.09	.02
<b>因子5【クラス運営】（<math>\alpha=.77</math>）</b>							
24. 他児に当該児の良さを伝える	.10	.08	-.10	.05	.70	-.08	.00
31. クラスの一人一人の得意に気づく活動をする	-.06	.04	-.07	.17	.58	.06	-.03
14. 子ども同士の共感と認め合いを大切にす	.08	.19	.02	-.08	.57	-.04	.01
11. 当該児がクラス集団の中で他児と共に楽しめる活動を増やす	-.02	.13	-.02	.00	.51	.13	-.07
33. クラスの保護者にクラスの様子や保育者の思いを伝える	.21	-.12	.12	.25	.30	-.03	-.01
<b>因子6【物的環境の整備】（<math>\alpha=.68</math>）</b>							
5. 子どもの特徴に合わせて保育室内の物の配置を変える	-.01	.09	.01	-.07	-.02	.80	-.03
4. 壁面を整備し刺激を減らす	-.01	-.04	-.04	-.05	.10	.79	-.05
20. 座る席の場所を工夫する	.08	-.07	.29	.04	-.10	.30	.08
<b>因子7【カームダウン】（<math>\alpha=.72</math>）</b>							
28. 子どもの気持ちを落ち着かせる	-.06	-.04	.22	-.03	.05	-.09	.74
17. 気持ちが落ち着いたり満足したりするまで待つ	.06	.23	-.11	-.04	-.06	-.05	.70
15. カームダウン・クールダウンスペース（気持ちを落ち着かせるための決まった場所）を設ける	.08	.02	-.22	.07	.00	.26	.46
29. 望ましくない行動が起こる前に止める	-.03	-.05	.31	.12	-.10	.05	.38
因子間相関							
		.37	.36	.54	.50	.26	.44
			.48	.51	.61	.34	.58
				.48	.55	.25	.52
					.58	.52	.58
						.31	.52
							.49



## ■分析と考察

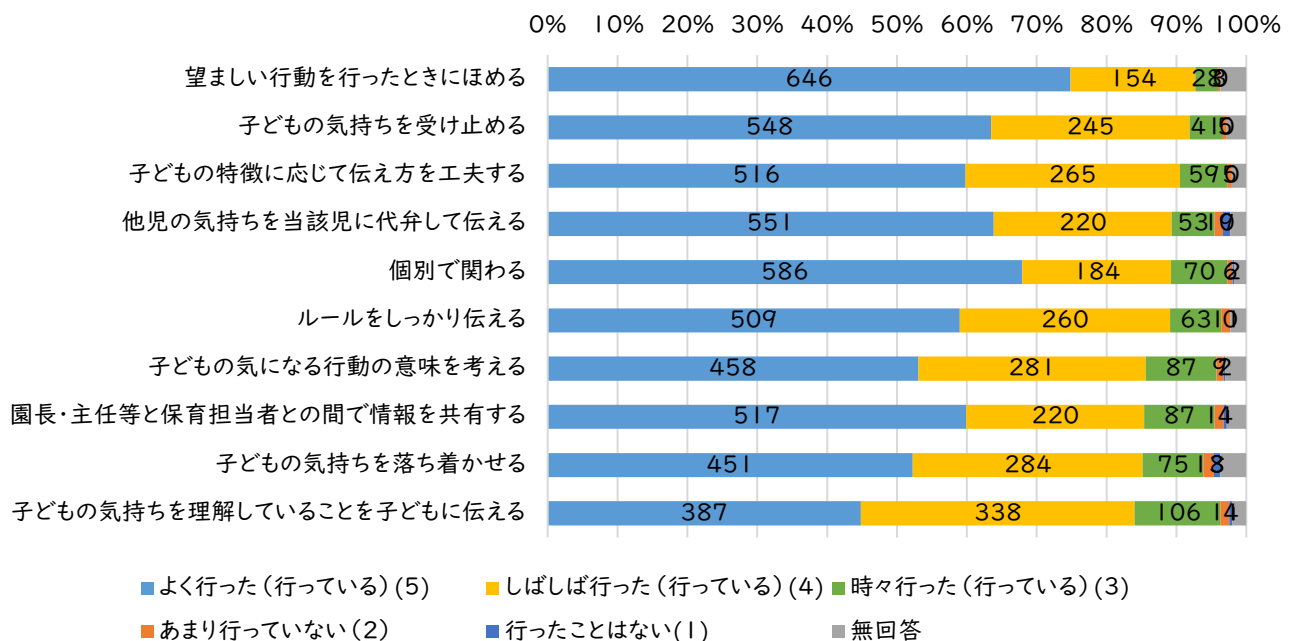
### ①多くの保育者が「(よく・しばしば) 行った」援助行動について

保育者が比較的多く子どもに行った援助行動(対応)の上位10項目の人数と割合は<図表Ⅱ-3-6>のとおり。

約93%の保育者が「望ましい行動を行ったときにほめる」ということを頻繁に行っていることがわかる。また因子分析によって【子ども理解(因子2)】に分類された項目が5項目見られた。「気になる」子どもへの援助行動として、子ども理解をベースとした個々への関わりを頻繁に行っている保育者が多いことが明らかとなった。

図表Ⅱ-3-6 保育者が「気になる」子どもへ行った援助行動(対応) 上位10項目(人数・割合)

	よく・しばしば 「行った」 回答人数	%	因子
望ましい行動を行ったときにほめる	800	92.7	因子3
子どもの気持ちを受け止める	793	92.0	因子2
子どもの特徴に応じて伝え方を工夫する	781	90.5	因子2
他児の気持ちを当該児に代弁して伝える	771	89.3	因子2
個別で関わる	770	89.2	—
ルールをしっかりと伝える	769	89.1	因子3
子どもの気になる行動の意味を考える	739	85.6	因子2
園長・主任等と保育担当者との間で情報を共有する	737	85.4	因子4
子どもの気持ちを落ち着かせる	735	85.2	因子7
子どもの気持ちを理解していることを子どもに伝える	725	84.0	因子2







② 1割以上の保育者が「行っていない」援助行動について

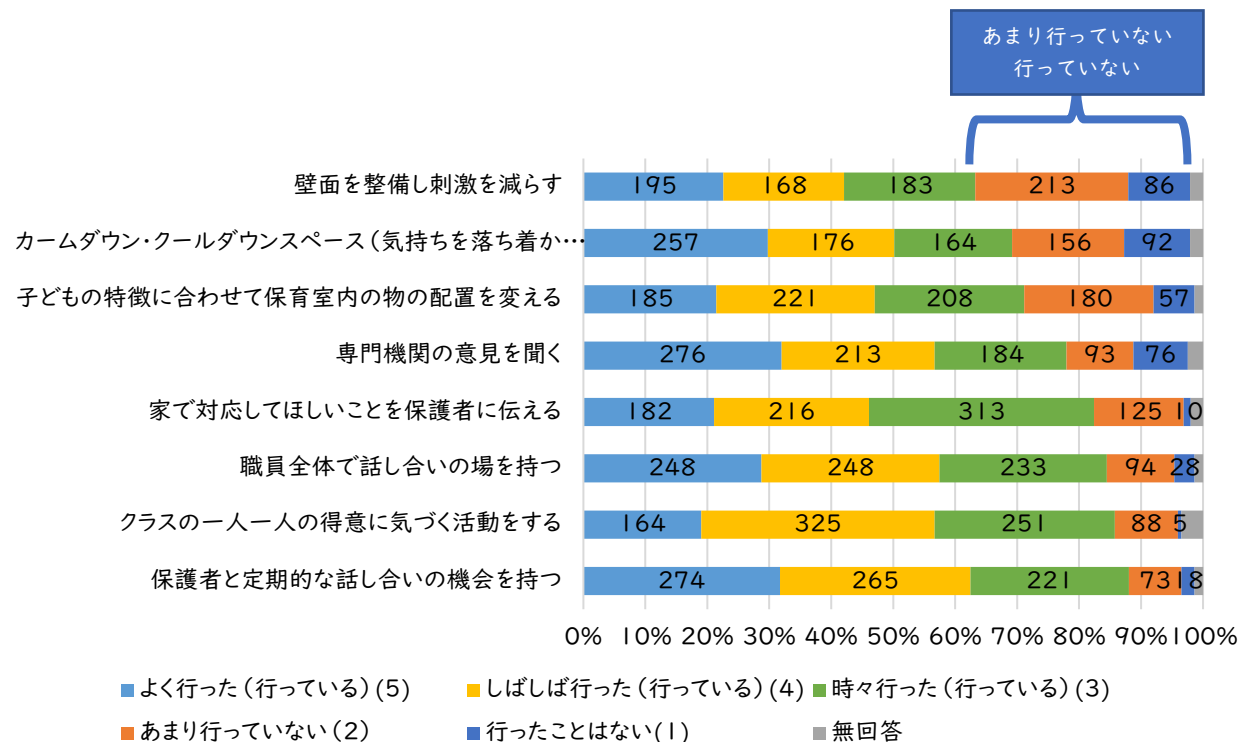
「気になる」子どもへの援助行動としては行っていない（あまり行っていない+行ったことはない）と回答した保育者が1割以上見られた項目（8項目）の人数と割合は<図表Ⅱ-3-7>のとおり。

壁面や保育室内の物の配置といった子どもを取り巻く物的環境の整備に関する項目が上位にきていることがわかる（3割程度は未実施）。

また、専門家や保護者との連携に関する項目については1～2割が未実施である。

図表Ⅱ-3-7 1割以上の保育者が「気になる」子どもへ行っていない援助行動（対応） 8項目（人数・割合）

	「行っていない」 回答人数	%	因子
壁面を整備し刺激を減らす	299	34.7	因子6
カームダウン・クールダウンスペース（気持ちを落ち着かせるための決まった場所）を設ける	248	28.7	因子7
子どもの特徴に合わせて保育室内の物の配置を変える	237	27.5	因子6
専門機関の意見を聞く	169	19.6	因子4
家で対応してほしいことを保護者に伝える	135	15.6	因子1
職員全体で話し合いの場を持つ	122	14.1	因子4
クラスの一人一人の得意に気づく活動をする	93	10.8	因子5
保護者と定期的な話し合いの機会を持つ	91	10.5	因子1





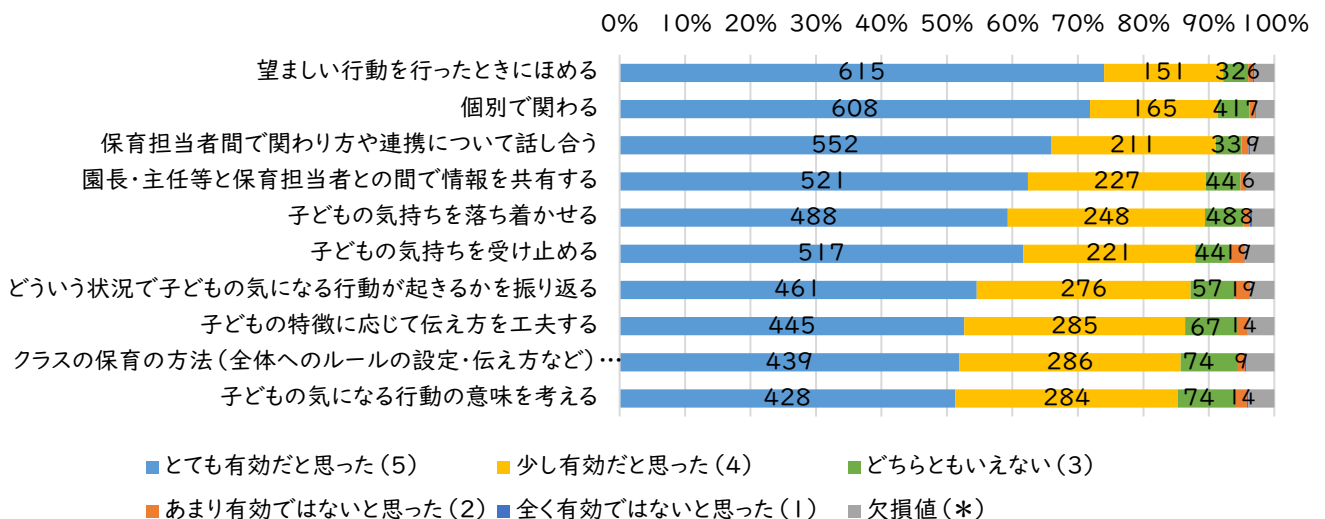
③ 行ったうえで「効果がある（有効である）」と認識している援助行動について

<図表Ⅱ-3-8>は援助行動（対応）を行った人のうち、その対応は有効な対応であると認識した人の割合が多かった上位10項目である。

①で見たように「望ましい行動を行ったときにほめる」という援助行動（対応）は多くの保育者が行っていた行動であるが、行ったうえで、それは有効な対応であったと認識されていることがわかる。また、多くの保育者が頻繁に行っている援助行動（対応）の上位は【子ども理解（因子2）】にまとまるような「子ども理解」をベースとした個々への関わりが多く挙げられていたが、これらに関する項目も、頻度同様に複数あがっている。同時に、頻度とは異なり着目すべきこととして【園内外での連携（因子4）】が3項目上位にあることがあげられる。保育担当者間や園長主任との情報の共有や連携が有効であると認識している保育者が行った人のうち約9割にのぼることがわかる。

図表Ⅱ-3-8 保育者の「気になる」子どもへの援助行動（対応）の効果（有効性）認識割合  
上位10項目（行った人のうちの割合）

	とても・少し 「有効だと思った 割合（%）」	因子
望ましい行動を行ったときにほめる	92.2	因子3
個別で関わる	91.4	—
保育担当者間で関わり方や連携について話し合う	91.1	因子4
園長・主任等と保育担当者との間で情報を共有する	89.6	因子4
子どもの気持ちを落ち着かせる	89.4	因子7
子どもの気持ちを受け止める	87.9	因子2
どういう状況で子どもの気になる行動が起きるかを振り返る	87.3	因子2
子どもの特徴に応じて伝え方を工夫する	86.4	因子2
クラスの保育の方法（全体へのルールの設定・伝え方など）を見直す	85.7	因子4
子どもの気になる行動の意味を考える	85.3	因子2







④ 援助行動（対応）の尺度ごとの分析

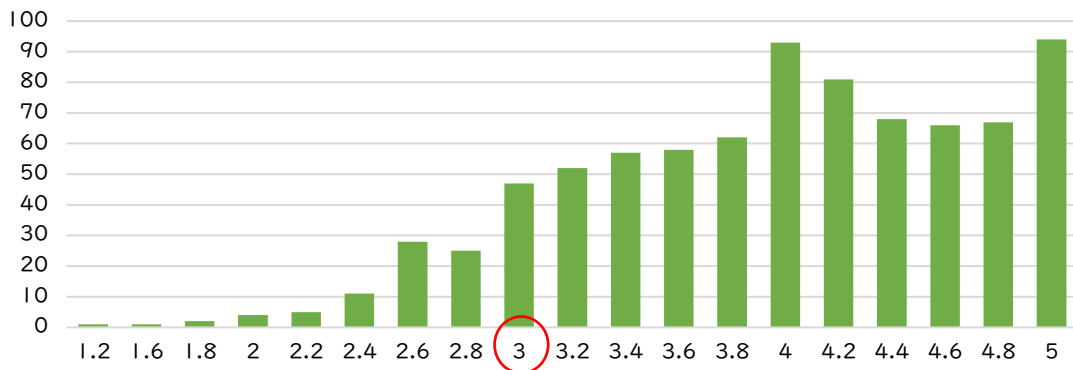
それぞれの尺度ごとの援助行動（対応）実行の平均値は＜図表Ⅱ-3-9＞の通り（範囲1-5，真ん中の値3）。平均値・標準偏差および分布を確認すると、いずれの項目も平均値は高く、分布はいずれも右に寄ったグラフ（以下にグラフを並べて示す）となる。

図表Ⅱ-3-9 援助行動（対応）7つの尺度ごとの平均値

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	回答数
保護者との連携	3.95	.75	1.2	5	822
子ども理解	4.37	.50	2.38	5	749
教育的かかわり	4.44	.49	2.25	5	793
園内外での連携	4.01	.69	1.4	5	799
クラス運営	3.89	.64	1	5	797
物的環境の整備	3.65	.92	1	5	823
カームダウン	3.99	.75	1	5	800

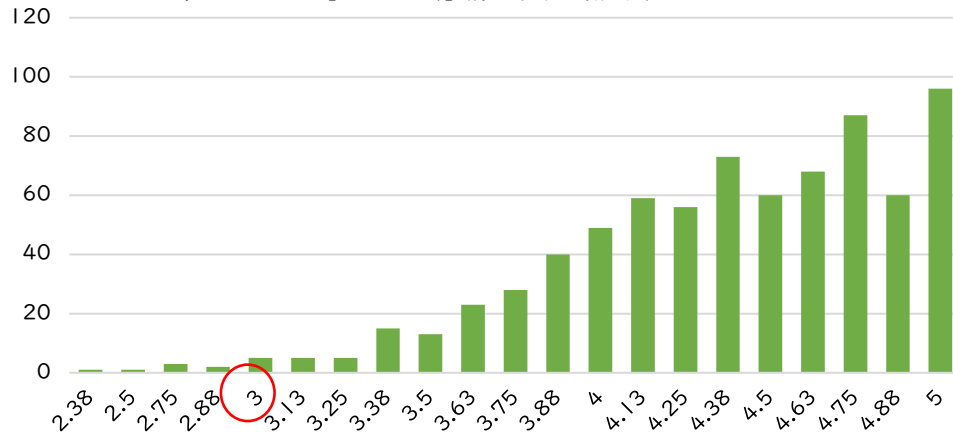
【保護者との連携】

図表Ⅱ-3-10 【保護者との連携】援助行動 得点分布



【子ども理解】

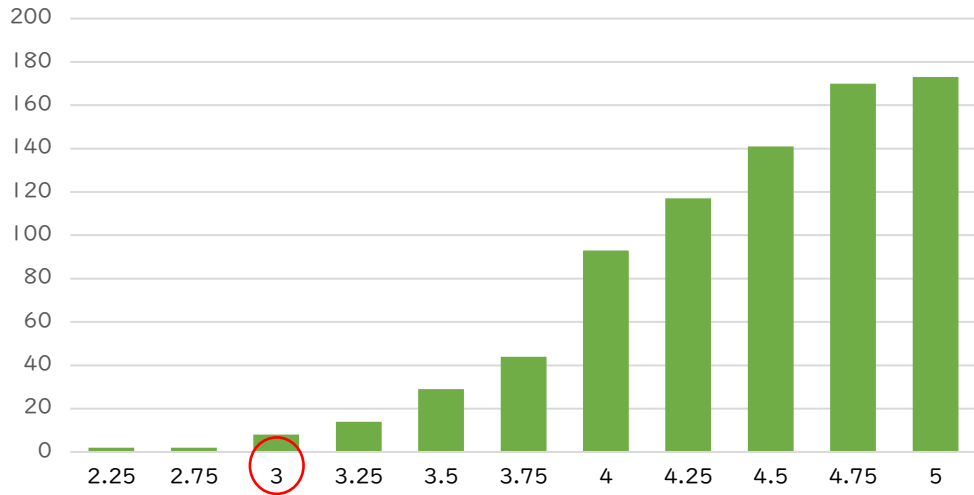
図表Ⅱ-3-11 【子ども理解】援助行動 得点分布





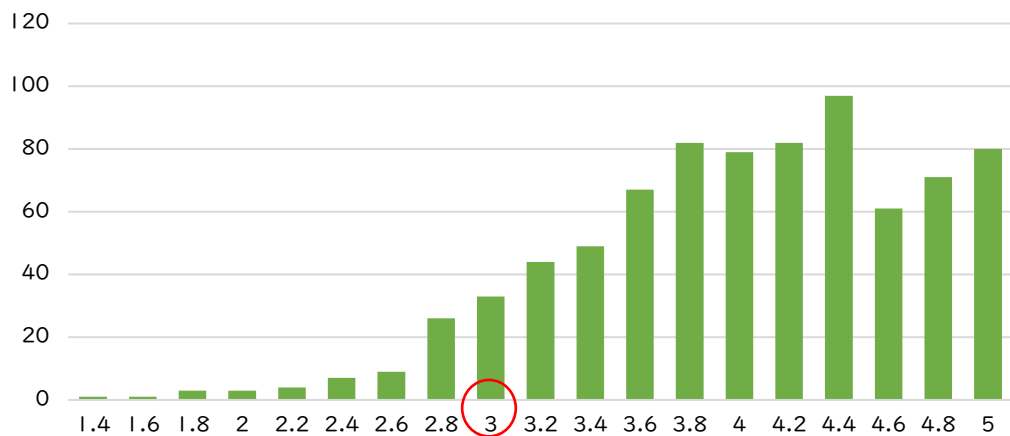
【教育的かかわり】

図表Ⅱ-3-12 【教育的かかわり】援助行動 得点分布



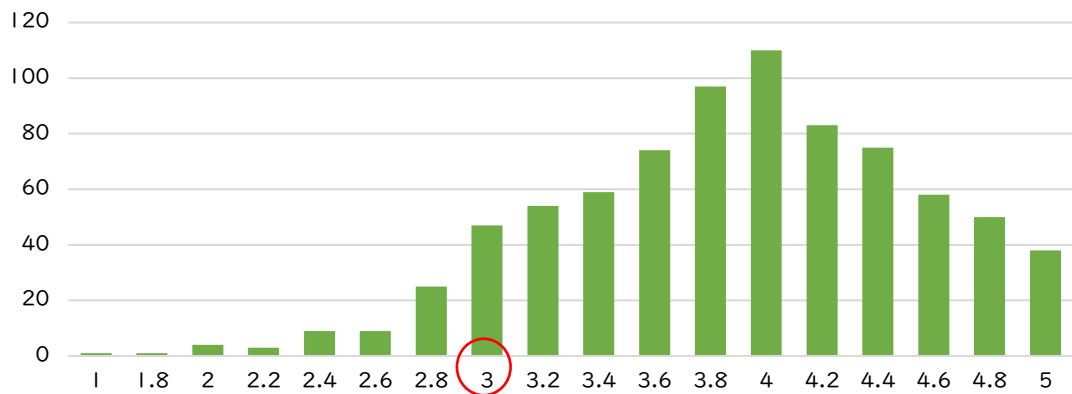
【園内外での連携】

図表Ⅱ-3-13 【園内外での連携】援助行動 得点分布



【クラス運営】

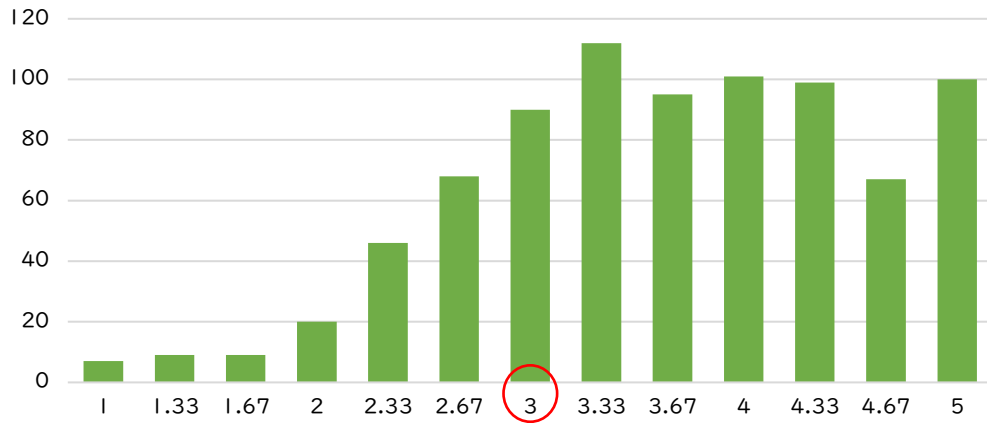
図表Ⅱ-3-14 【クラス運営】援助行動 得点分布





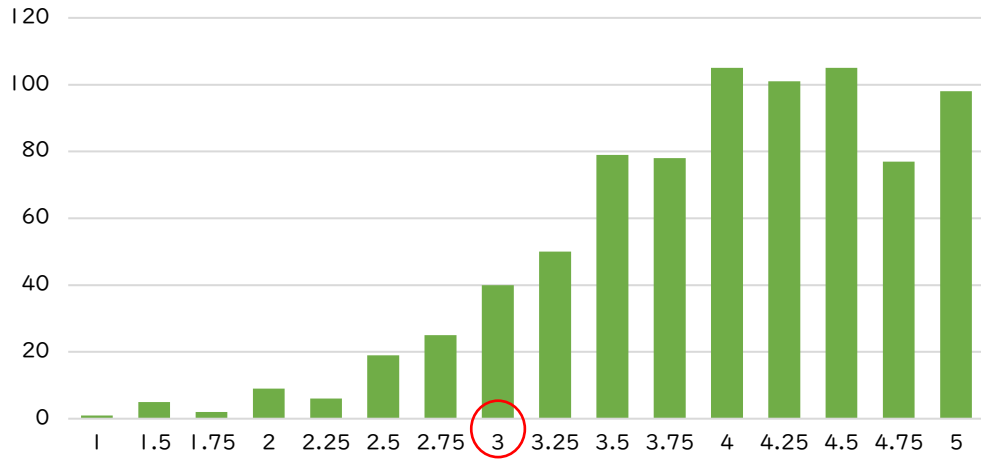
【物的環境の整備】

図表Ⅱ-3-15 【物的環境の整備】援助行動 得点分布



【カームダウン】

図表Ⅱ-3-16 【カームダウン】援助行動 得点分布





⑤ 援助行動（対応）尺度ごとの有効性（効果）認識の分布

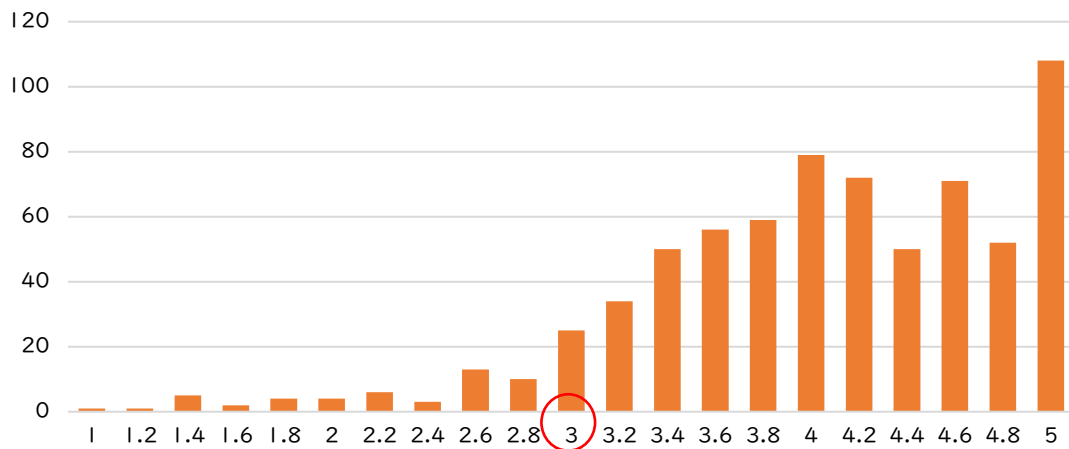
それぞれの尺度ごとの有効性（効果）認識の平均値は<図表Ⅱ-3-17>の通り（範囲1-5，真ん中の値3）。こちらも平均値・標準偏差および分布を確認すると、いずれの項目も平均値は高く、分布はいずれも右に寄ったのグラフ（以下にグラフを並べて示す）となる。

図表Ⅱ-3-17 有効性（効果）認識 7つの尺度ごとの平均値

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	回答数
保護者との連携	4.03	.77	1	5	705
子ども理解	4.31	.56	2	5	646
教育的かかわり	4.25	.57	2	5	727
園内外での連携	4.51	.52	2	5	609
クラス運営	4.19	.61	2	5	683
物的環境の整備	4.03	.73	1	5	614
カームダウン	4.34	.58	2	5	617

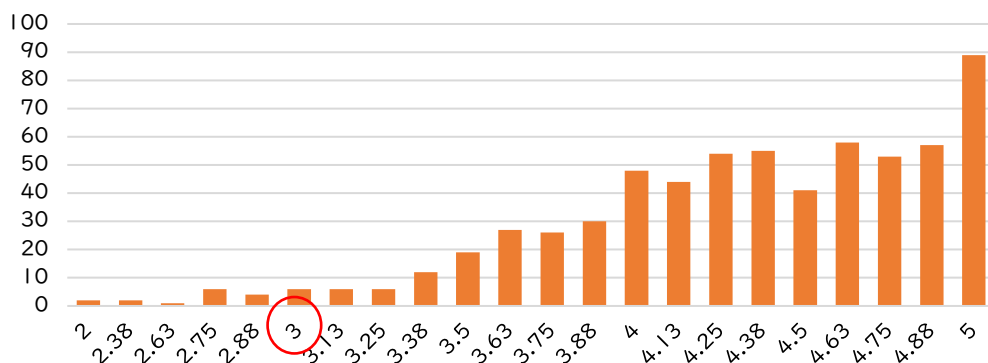
【保護者との連携】

図表Ⅱ-3-18 【保護者との連携】有効性認識 得点分布



【子ども理解】

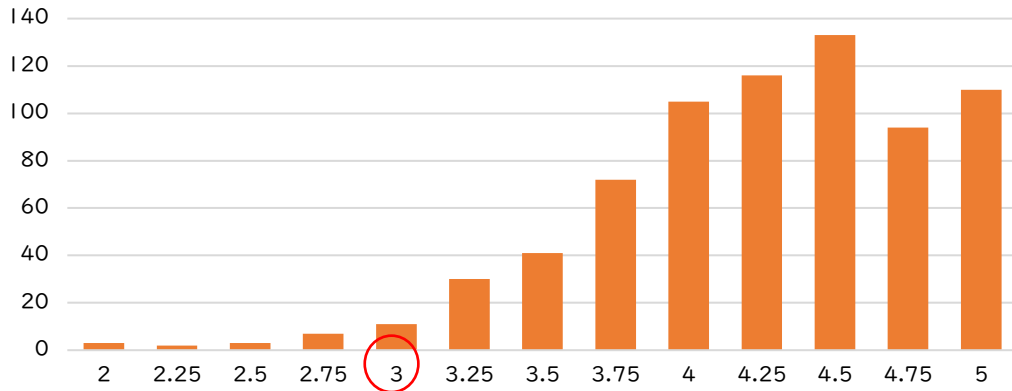
図表Ⅱ-3-19 【子ども理解】有効性認識 得点分布





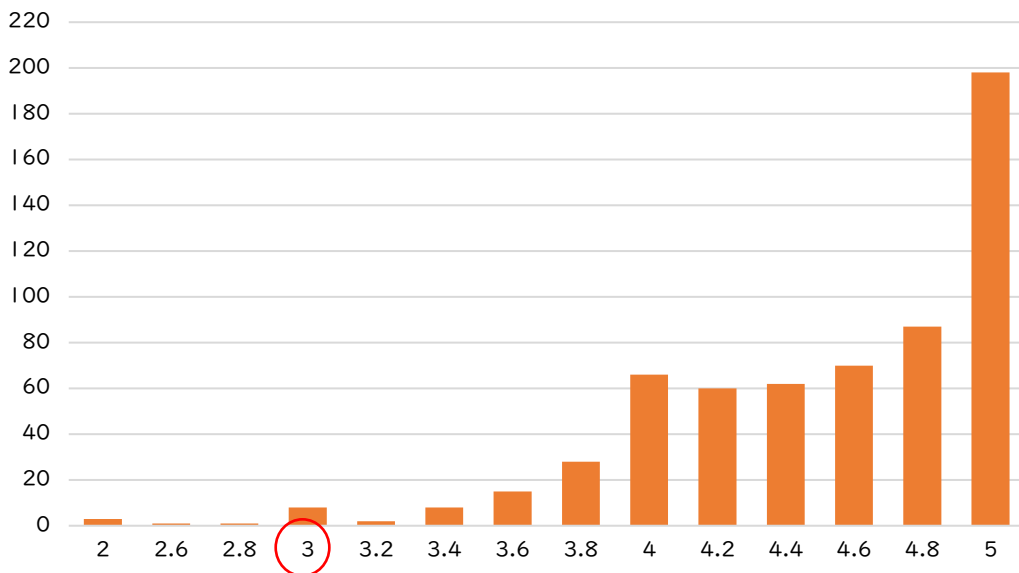
【教育的かかわり】

図表Ⅱ-3-20 【教育的かかわり】有効性認識 得点分布



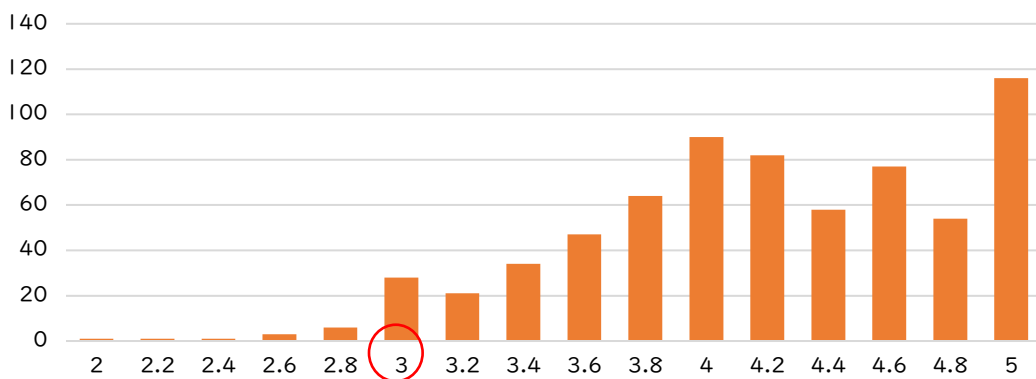
【園内外での連携】

図表Ⅱ-3-21 【園内外での連携】有効性認識 得点分布



【クラス運営】

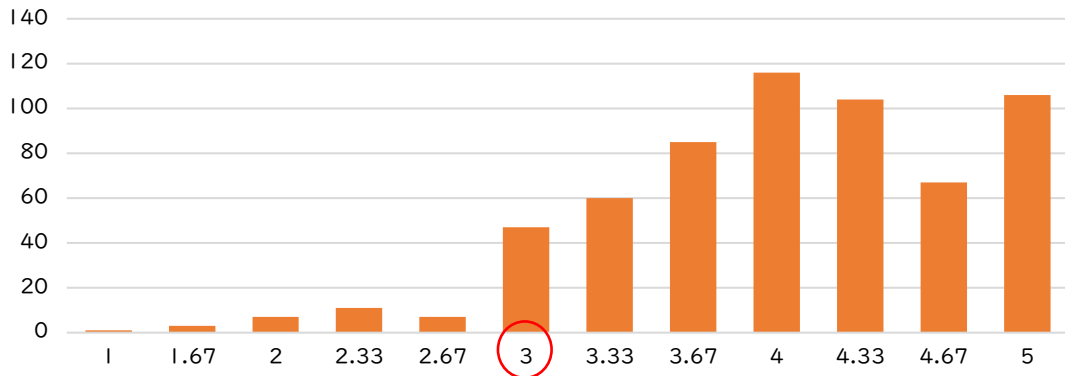
図表Ⅱ-3-22 【クラス運営】有効性認識 得点分布





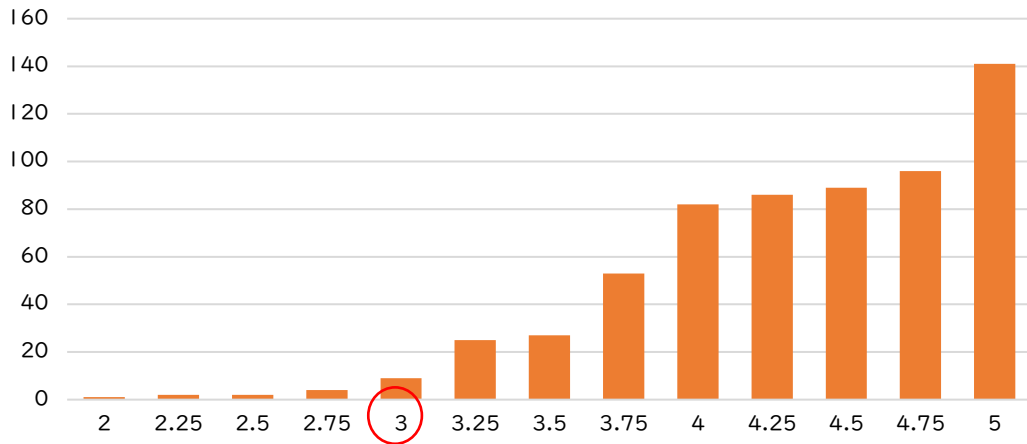
【物的環境の整備】

図表Ⅱ-3-23 【物的環境の整備】有効性認識 得点分布



【カームダウン】

図表Ⅱ-3-24 【カームダウン】有効性認識 得点分布





## 2) 保育にあたっての園内の保育者の被サポート認識

「気になる」子どもを含む保育を行うにあたって、その際に園の中でどのようなサポート体制があったと保育者自身が認識しているかを明らかにするために、以下の12項目について4段階で回答を求めた。

1. 落ち込んだ時に励ましてもらった
2. 子どもや保護者への対応に困ったときに参照できる専門書やマニュアルがあった
3. ちょっとした愚痴を聞いてもらった
4. 園全体の協力体制が整備されていた
5. あなたのことを信頼してもらった
6. 専門的知識を持った同僚がいた
7. 仕事があまくいかないときに相談に乗ってもらった
8. 子どもへの対応についてわかりやすく教えてもらった
9. 折に触れて声をかけてもらった
10. 仕事で困ったときに解決策やアドバイスをもらった
11. 園の中での出来事\_あなたのことを本気で心配してもらった
12. 園の中での出来事\_仕事が忙しい時に手伝ってもらった

<回答選択肢> 4段階

- ・全くなかった
- ・ほとんどなかった
- ・たまにあった
- ・よくあった

### 【分析の概要】

#### ■保育者の園内の被サポート認識の整理 (⇒P.39-41)

12のサポート項目に対する、各項目の回答数および割合は<図表Ⅱ-3-25><図表Ⅱ-3-26>の通りである。

各項目の得点は、  
 全くなかった=1 / ほとんどなかった=2 /  
 たまにあった=3 / よくあった=4 /

として、各項目の平均値を算出した。<図表Ⅱ-3-25 右欄>

また<図表Ⅱ-3-26>は、「よくあった・たまにあった」という「被サポート認識」が高かった順に並べたものである

さらに、12項目の個人得点分布を<図表Ⅱ-3-27>として示した。



■回答数と割合

図表Ⅱ-3-25 保育者の園内の被サポート認識

	人数					%				平均値	標準偏差
	全くなかった(一)	ほとんどなかった(二)	たまにあった(三)	よくあった(四)	無回答	全くなかった(一)	ほとんどなかった(二)	たまにあった(三)	よくあった(四)		
1. 落ち込んだ時に励ましてもらった	62	279	251	252	19	7.2	32.3	29.1	29.2	2.82	.94
2. 子どもや保護者への対応に困ったときに参照できる専門書やマニュアルがあった	187	319	248	90	19	21.7	37.0	28.7	10.4	2.29	.93
3. ちょっとした愚痴を聞いてもらった	51	168	244	391	9	5.9	19.5	28.3	45.3	3.14	.94
4. 園全体の協力体制が整備されていた	45	237	302	265	14	5.2	27.5	35.0	30.7	2.93	.89
5. あなたのことを信頼してもらった	37	159	310	343	14	4.3	18.4	35.9	39.7	3.13	.87
6. 専門的知識を持った同僚がいた	113	252	268	214	16	13.1	29.2	31.1	24.8	2.69	.99
7. 仕事がうまくいかないときに相談に乗ってもらった	41	166	249	397	10	4.8	19.2	28.9	46.0	3.17	.91
8. 子どもへの対応についてわかりやすく教えてもらった	61	224	306	261	11	7.1	26.0	35.5	30.2	2.90	.92
9. 折に触れて声をかけてもらった	69	231	297	249	17	8.0	26.8	34.4	28.9	2.86	.94
10 仕事で困ったときに解決策やアドバイスをもらった	44	192	282	326	19	5.1	22.2	32.7	37.8	3.05	.91
11. 園の中での出来事_あなたのことを本気で心配してもらった	95	210	291	251	16	11.0	24.3	33.7	29.1	2.82	.98
12. 園の中での出来事_仕事が忙しい時に手伝ってもらった	49	203	261	332	18	5.7	23.5	30.2	38.5	3.04	.93



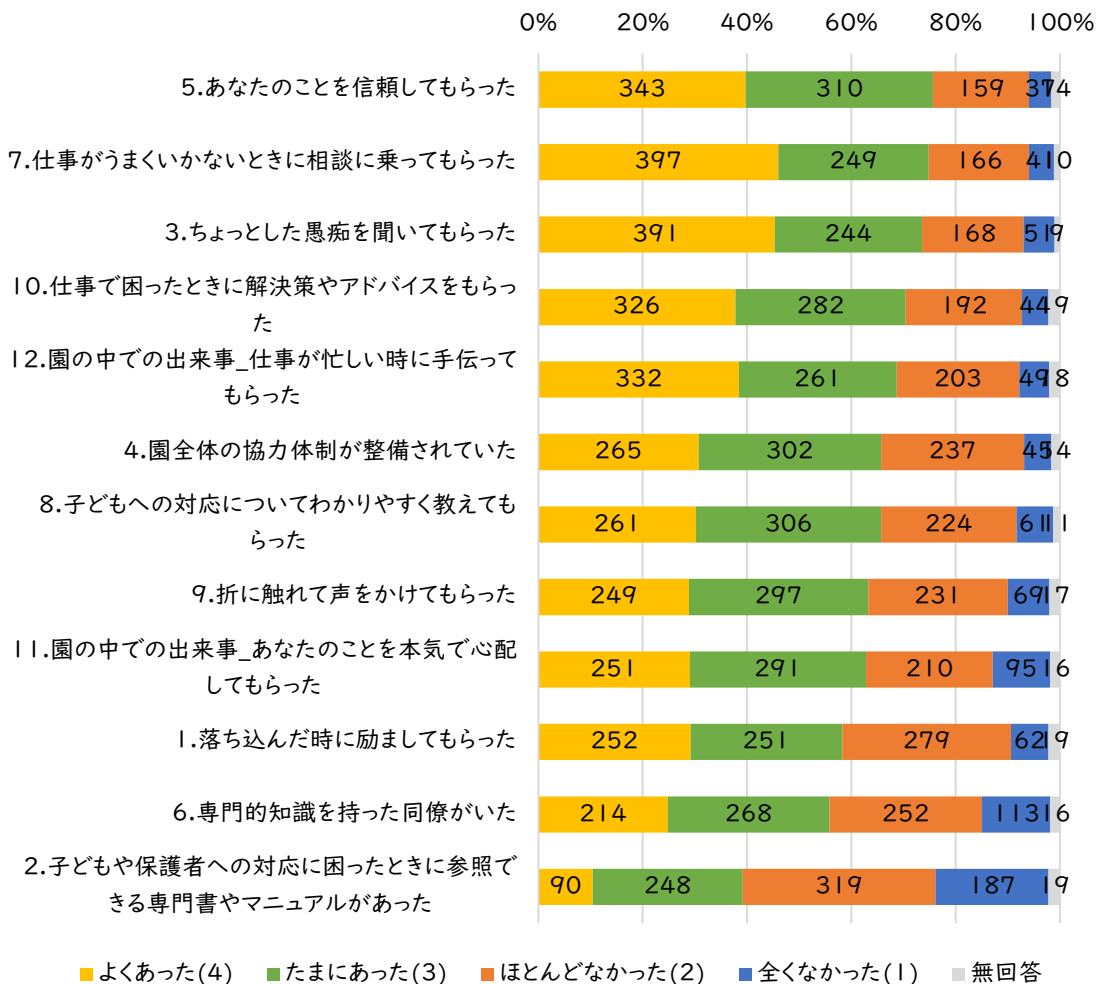


## ■度数順グラフ

<図表Ⅱ-3-26>それぞれのサポートが「よくあった」「たまにあった」と回答した人の多い順に並べたものである。

「信頼してもらった」「仕事がうまくいかないときに相談に乗ってもらった」「ちょっとした愚痴を聞いてもらった」の上位3項目は、概ね4人に3人は「あった」と回答している。反対に下位の項目としては「対応に困ったときに参照できる専門書やマニュアル」については6割が「ない」と回答している。

図表Ⅱ-3-26 保育者の園内の被サポート認識  
認識度数順（よく・たまに「あった」順）

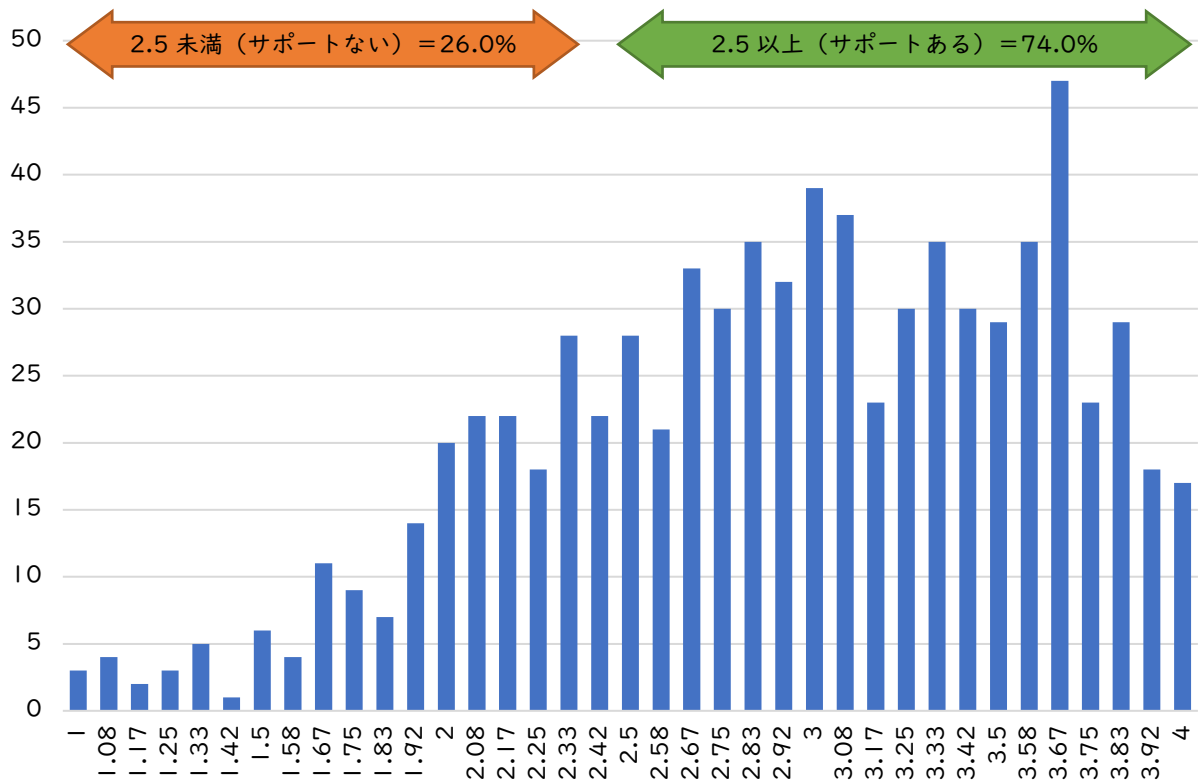




## ■個人得点分布

12項目をそれぞれ得点化し、個人ごとの平均を算出した。個人得点の分布は<図Ⅱ-3-27>のとおり。得点分布をみると全体の4分の3の回答者は、園内でのサポートがある方向で認識しており、4分の1の回答者は園内でのサポートがあまりないと認識していることがわかる。

図表Ⅱ-3-27 保育者の園内の被サポート認識 個人得点分布





### Ⅲ. まとめ：データから見えてきたこと

#### Ⅰ. 保育者が「気になる」子ども

##### ●多く見られた行動特徴

【不注意・多動・衝動傾向】【切り替えの難しさ】といった行動特徴

行動調整の難しさ

感情調整の難しさ

- ➡これらの**コントロールの難しさ**を行動特徴として持っている子どもを「気になる」と感じる保育者が多いことが明らかになった
- ➡これらの行動は「その子どもへの対応」のみならず、「**クラス集団**」の運営において**保育者が感じる困難さにつながる可能性**が考えられる
- ➡これらの行動特徴を有する子どもたちを「**含んだ（インクルーシブ）**」クラス運営をどのようにしていくのが現在の保育現場における課題であると示唆される

##### ●少なかった行動特徴

【不安傾向】といった行動特徴

不安感

- ➡今回の調査においては「気になる」子どもの行動特徴としては他の項目に比べると「見られる」程度が低いということが明らかになった
- ➡不安といった**内在的な困り感**は、**集団の中で「目立たない」**可能性が示された
- ➡外在的な（目立つ）行動で困り感を示す子どもたちだけではなく、**内在的困り感**を示す子どもに「**気づいて支援をする**」**必要性**が考えられる



## 2. 「気になる」子どもの保育：保育者の対応とその有効性の認識

### <対応>

- 多い対応 … 褒める／特徴に寄り添う／受け止める

受容的・肯定的かかわり

子ども理解に基づくかかわり

➔「個に対する」重要なかかわり方が多く行われていることが示された

- 少ない対応… 壁面／スペース／特徴に合わせた保育室内の整備

物的環境

➔園内・クラス内の物的環境の整備といった「園全体」に関わる部分の整備の難しさが明らかになった

➔担任一人だけではない、園全体での見直しの必要性が示唆される

### <有効性の認識>

- 「有効である」との認識は全体的に高い

➔今回はその対応を「行っている」と回答した保育者のみに尋ねた

保育者は、対応にあたってはそれぞれの子どもに「合った」対応を選択して行っている可能性が考えられる

- 中でも特に「有効である」との認識の高かったもの

望ましい行動を行ったときに褒める

望ましい行動への肯定的フィードバック

➔一番行われている対応でもあり、かつ、一番「有効である」と感じていることが明らかになった

➔子どもの「気になる」行動に目を向けるのではなく「望ましい行動」に目を向ける重要性が示された

保育担当者間での連携

園長・主任等と保育担当者間との情報共有

チーム保育

➔現在様々な観点から重要視されている「チーム保育」が「気になる」子どもの保育においても重要であるということが示唆された



## おわりに

本研究は、2021年度新潟県立大学高度化推進事業助成研究「新潟県における保育の質保証に寄与する人文・社会科学的観点からの調査研究」の一環として取り組まれました。子ども学科に所属する教員が、日頃の教育・研究・地域貢献活動を通じて見えてきた、保育者の課題認識をデータ化することを目的とした研究です。本報告書では、新潟県内の保育現場で働く保育者が「気になる」子どもとはどのような子どもを指しているのか、どのような保育を提供することがその子どもにとって「適切である」と保育者が感じているのか、を明らかにすることができました。調査結果から、子ども一人ひとりの状況に応じた受容的アプローチが、多くの「気になる」子どもたちへの関わりにおいて重要であると保育者が認識し実践していることが明らかになりました。チーム保育という、職場内での保育者間の連携が有効であることも示唆されています。一方、不安を抱える子どもの存在や物的環境の整備といった、「気になる」子どもとクラス運営、園運営のあり方を問う視点が示されました。

今日、保育を必要とする子どもや家庭の状況が多様化するなかで、保育の質が問われる時代となりました。サービス量ではなく、その質に着目されるようになったことは、保育者として望ましいことかと思われまます。この時代に、インクルーシブな保育環境をいかに構築することができるか。この研究成果の公表をきっかけに、保育者と研究者が共に、新潟県で育つ子どものウェルビーイングを目指すことを願ってやみません。

最後になりましたが、本研究の実施に当たり、新潟県私立保育園・認定こども園連盟、新潟県私立幼稚園・認定こども園協会、新潟市私立保育協会、新潟市私立幼稚園・認定こども園協会の各団体から、調査研究に対するご快諾いただき、ご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。また、調査にご協力くださった、保育者のみなさまにも厚く御礼申し上げます。

2024年4月

「新潟県における保育の質保証に寄与する人文・社会科学的観点からの調査研究」

代表 小池 由佳



新潟県立大学高度化推進事業助成研究  
保育に関するアンケート調査報告書  
保育現場における「気になる」子どもの行動特徴とその支援  
2024年4月発行